

八 内ニ畦畔欄ヲ設ケテ本地ニ量入シタル畦畔面積ヲ表示スヘシ
 從前ノ土地ノ評定價額ニ對スル一定ノ比率ヲ算出シ之ヲ以テ換地交付ノ標準ヲ算出シタル
 場合ニ於テハ右ニ關スル説明書ヲ添附スヘシ
 九 評定價額ヲ附セスシテ金錢清算ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ算出ニ關スル説明書ヲ添附スヘ
 シ
 十 從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記事欄ニ記載スヘシ

堤塘 赤褐色	原野 鼠色	山林 綠色	宅地 薄紅色	畑 黄色	田 無色
同前	同前	同前	同前	同前	同前

井 同詰上	線 渠水暗	道 路褐色	水 路藍色	湖海池 沼溜池藍色
同前	同前	同前	同前	同前

學校 文	寺院 卍	神社 卍	墳墓 上	同第四 ノ土地	同第三 ノ土地	耕整地 法第四	橋梁	向水 流方	用排 水方	向排 水方	用排 水方
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前

標高	同高線	區界	地區界	又ハ水田 ノ種別	字界	大字界	町村界	郡市界	府縣界	鐵道
2.5										
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前

水深 3.5 同前同前 同前

●耕地整理取扱手續

(明治四十二年十月二十六日 大藏省訓令第二十八號)

稅務監督局 稅務署

第一條 耕地整理施行者ヨリ整理施行ノ認可アリタルコトノ申告アリタルトキハ相當調査ヲ爲シ其ノ地區内ニ耕地整理法第十五條第一號ノ土地アルトキハ工事著手前實地臨檢ノ上毎筆地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シ土地臺帳ノ整理ヲ爲スヘシ

第二條 耕地整理施行者ヨリ工事完了ノ申告アリタルトキニ於テ耕地整理法第十四條第一項第三項及第十五條第二號ニ依リ地價ヲ設定又ハ修正スヘキ土地アルトキハ實地臨檢ノ上直ニ之ヲ設定又ハ修正ヲ爲スヘシ

第三條 耕地整理施行者ヨリ地價配賦ノ請求アリタルトキハ實地臨檢ノ上毎筆地價ヲ附シ相當ニ地價ヲ配賦スヘシ

三百九十四

第四條 整理地ノ地番ハ其ノ地區内ニ於ケル從前ノ地番中首位ニ在ルモノヨリ順次之ヲ附シ從前ノ地番ノ最終番ヲ超エル場合ニ於テハ便宜ノ土地ニ付一二三等ノ符號ヲ附シタル地番ヲ用フヘシ但シ其ノ順位ニ當ル地番地區外ノ土地ニ在ルカ爲重複スルトキハ之ヲ除外スヘシ

第五條 耕地整理法施行規則第十五條ニ該當スル土地アルトキハ實地ノ狀況ニ依リ工事ノ利益ヲ受ケタルヤ否ヤヲ調査シ相當處理スヘシ

第六條 整理地ニ關スル土地臺帳ノ登錄ハ新ニ之ヲ爲シ從前ノ登錄ハ其ノ沿革欄ニ異動ノ事由ヲ記入シ置クヘシ

第七條 前條ニ依リ整理地ヲ土地臺帳ニ登錄シタル場合ニ於テ變換ノ後五年開墾著手後九年ヲ經過セルモノ又ハ各種ノ年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期終了セサルモノアルトキハ荒地臺帳變換地臺帳其ノ他ノ臺帳ニ於ケル當該土地ノ事故欄ニ耕地整理ノ爲變換又ハ年期消滅ノ旨ヲ記入シ其ノ記載事項ヲ朱抹スヘシ

第八條 耕地整理法第十六條ニ依リ事業關係者ニ於テ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及其ノ金

額ヲ定ムルコトニ付協議一致セサルトキハ實地ノ狀況ニ依リ公平適實ニ之ヲ定ムヘシ

第九條 耕地整理法第十六條ニ依リ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ金額ハ土地臺帳ノ沿革欄ニ其ノ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ期間及金額ヲ記載シ其ノ期間中ハ其ノ金額ヲ加除シテ地租ノ徵收ヲ爲スヘシ

前項ノ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付テハ別記様式ノ帳簿ヲ作り之ヲ整理スヘシ

第十條 土地臺帳ノ整理ヲ了シタルトキハ有租地集計簿ヲ整理スヘシ

第十一條 耕地整理ニ關シタル圖面ハ永久之ヲ保存スヘシ

(別記様式)

耕地整理地租調理臺帳

田(何何)		明治四十四年ヨリ配賦地價ニ依リ徵租スヘキモノノ部		何市町村	
摘	要	大字字地番	段別	配賦地價	同土地價
四十二年十月	元地類變換地	九重二見三	一〇〇〇	三〇〇〇〇	二四七五
同	同	向島梅川五	五〇〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇〇〇
現	四十二年五月	同	六〇〇〇	一八〇〇〇	七九七五
同	元地類變換地	神山馬場七	三〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇
同	元地類變換地	同	五〇〇〇	一五〇〇〇	六〇〇〇〇
同	同	同	一〇〇〇〇	五五〇〇〇	一〇〇〇〇〇

備考

- 一 大字毎ニ地番ヲ付シタル市町村ニ在リテハ字ノ記載ヲ要セス
- 二 異動ナキトキハ重テ現在額ヲ掲グルヲ要セス
- 三 負擔ヲ受クヘキ土地ト利益ヲ受クヘキ土地トニ口座ヲ設クルモノトス

●國有林野耕地整理

施行地區編入手續

(明治四十四年十二月二十九日)
(農商務省訓令第二十二號)

大林区署

- 第一條 國有林野ヲ耕地整理施行地區ニ編入スルノ申請アリタルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ大林区署長之ヲ認許スヘシ但シ面積二町歩ヲ超ユルトキ又ハ編入ヲ認許スヘカラスト認メタルトキハ意見ヲ具シ稟伺スヘシ
- 第二條 國有林野ヲ地區ニ編入スルハ耕地整理組合規約ニ於テ組合費用ヲ國ニ賦課セサルコトヲ定メタル場合ニ限ル
- 第三條 整理施行上必要ノ箇所カ要存置林野ナルトキハ地區外事業トシテ工事ヲ施行セシメ

- 第四條 地方長官ヨリ編入申請書ノ送附ヲ受ケタルトキハ速ニ實地ノ調査ヲ爲シ認許書ハ之ヲ地方長官ニ送附スヘシ
- 第五條 耕地整理組合設立認可ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ整理施行地區ニ編入シタル國有林野ノ賣拂又ハ讓與ニ著手スヘシ整理施行地區ニ編入シタル林野ノ内道路路堤溝渠溜池等他ノ官有地ニ組換ヲ要スルモノハ工事完了ノ後組換ノ手續ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地臺帳規則

(明治二十二年三月勅令第三十九號)

- 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及買入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得
- 第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

●土地臺帳規則施行

細則(明治二十二年四月)
(大藏省令第六號)

- (三十三年省令第二號及第二十七號、三十四年同第二十四號、三十七年同第六號及第八號、三十八年同第十二號、三十九年同第二十號ヲ以テ改正)
- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者買取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主又ハ地上

權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々
之ヲ届出ツヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノ
ハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ
烏廳郡役所ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモ
ノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セ
ス

謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ
於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スル
コトヲ要ス

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左
ノ雜形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ(雜形略
ス)

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルト
キハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者

ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此
ノ限リニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ
設定、移轉、消滅若クハ地上權ノ期間ノ變更
ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登録セ
ス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ
因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移
轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ
河川法ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル場合ハ此
ノ限ニ在ラス

相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保
存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登
記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

◎地租條例

(明治十七年三月大政官布告第七號)

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百
七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル
條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢ス但東京府
管轄伊豆七島小笠原島「兩館縣」沖繩縣「札幌縣
根室縣」ハ當分従前ノ通りタルヘシ

地租條例

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地

地價百分ノ二箇半

田畑

地價百分ノ四箇五

其他ノ土地

地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分
左ノ稅率ニ依ル

田畑

地價百分ノ三箇二

其他ノ土地

地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケ
タル價額ヲ謂フ(改正四十三年法律第二號)

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、礦泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地(二十

二年十一月法律第三十號ヲ以テ本項改正)

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノ

ナ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノナ地類變
換ト謂フ(追加四十三年法律第二號)

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノナ
開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押溜、石
砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ

地形ヲ變シタルモノナ荒地ト謂フ

第四條 左ニ掲ケル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

(改正三十八年法律第三十三號)

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル
公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル

土地但有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公
共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノ

ト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内
ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限

ニ在ラス

三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ
此限ニ在ラス(改正四十三年法律第二號)

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、陸塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地（改正四十年法律第三十六號）

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣郡市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限リニ在ラス
軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス（追加四十年法律第三十六號）

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正）
第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス（改正四十年法律第二號）

四百

- 一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾シタルトキ
- 三 開拓鐵道下期明ニ至リタルトキ
- 四 荒地免租平明期ニ至リ原價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原價ニ復シ難キトキ
- 第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ報告スヘシ
- 第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム
- 第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ（削除四十年法律第二號）
- 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス
- 第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス（改正四十年法律第二號）

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス（同上）

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限
第二期 其年一月一日ヨリ同三月三十一日限

二 田

第一期 其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限
第二期 其年二月一日ヨリ同二月末日限

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

第三期 其年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

第五期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第六期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

第七期 其年十二月一日ヨリ同十二月三十一日限

第八期 其年一月一日ヨリ同三月三十一日限

第九期 其年五月一日ヨリ同五月三十一日限

第十期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限

第十一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第十二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

第十三期 其年十二月一日ヨリ同十二月三十一日限

第十四期 其年一月一日ヨリ同三月三十一日限

第十五期 其年五月一日ヨリ同五月三十一日限

第十六期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第十七期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

第十八期 其年十二月一日ヨリ同十二月三十一日限

第十九期 其年一月一日ヨリ同三月三十一日限

第二十期 其年五月一日ヨリ同五月三十一日限

第二十一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

地租額二分ノ一

第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ徵收ス

一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者

二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者

三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ（改正三十八年法律第三十三號）

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス（改正四十年法律第一號）

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後

四百一

又ハ其事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ
地租ヲ徵收セス(同上)

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地
トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期
ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納
期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ
ハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期
許可ノ場合又ハ荒地免租年期若クハ新開免
租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届
出ツヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以
テ本項改正)

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其
成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス(二十二年十
一月法律第三十號ヲ以テ本項追加)

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントス
ルトキハ政府ニ願出繳下年期ノ許可ヲ受クヘ
シ繳下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地
價ニ依リ地租ヲ徵收ス(同上)

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地
相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ

繳下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ
地租ヲ徵收ス(同上)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土
地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス(同上)
地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要ス
ルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價
據置年期ヲ許可スルコトアルヘシ(同上)

但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタ
ルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其
地租ヲ修正ス(追加四十二年法律第二號)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土
地又ハ開墾繳下年期若クハ地價據置年期ノ許
可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目
變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合
ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ
依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部
又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌
年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ
其地租ヲ徵收ス(改正四十二年法律第二號)

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ
舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ
對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以

テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價ト
シ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其
地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(追加同上)

第十八條 創除(明治三十一年法律第三十號)
第十九條 繳下年期明地價據置年期明新開免租
年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十
二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免
租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同
上)海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタル
モノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアル
ヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本
項追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況
原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下
ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス
(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改
正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復
シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目
ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正
ス(改正四十二年法律第二號)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形状
ヲ存スルモノハ更ニ五年以内免租年期ヲ
定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ
第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(二十二
年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期
明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以
内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原
地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、
海、湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十五條 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ
又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事
項ヲ尋問スルコトヲ得(追加四十二年法律第
二號)

第二十六條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逃脫スル者ハ
四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現
地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵
ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス
(改正四十二年法律第二號)

第二十七條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上
三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ
依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨ
四百三

リ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(同上)

第二十七條 第十條第一項第十六條第二項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(改正二十二年法律第三十號)

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

●地租條例施行規則

(明治四十三年十二月勅令第四四號)

第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム

第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

四百四

一 別地目ト爲ルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ

三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

四 所有者ヲ異ニスルトキ

五 質權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾着手後十年以内又ハ開墾後下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下年期中地類ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地

其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依リ届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ墾下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期満了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘ

四百五

目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付アハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ

リ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(同上)

シ
 一 地目ヲ變地シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
 二 開墾ニ著手シタルトキ開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之ヲ供用ナ廢止シタルトキ
 四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之ヲ供用ナ廢止シタルトキ
 五 地租ヲ課スル土地ノ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ
 前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ
 第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第四百六
 第十五條 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期右ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ
 第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ
 前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス
 附則
 本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 附則 (四十二年法律第二號)
 本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス
 宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス
 本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
 本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
 明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス

●地租條例ニ依ル公 共團體及期間指定 ノ件

(三十八年五月勅令第五百五十九號)

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス
 府縣組合、郡組合(改正大正三年八月勅令第百七十三號)
 市町村組合、水利組合、水利組合聯合會(同上)
 町村組合、市町村學校組合及町村學校組合、市町村内ノ區、學區(同上)
 沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區内ノ部及間切島内ノ村
 北海道地方費(追加三十九年勅令第五百五十三號)北海道ノ區及區町村内ノ部(同上)
 北海道土功組合(同上)

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供ス可キモノト定メタルトキヨリ一箇年トス

●地租條件ニ依ル 下年期、新開免租 年期延長ニ關スル 件

(明治三十四年四月十二日
法律第三十號)

地租條例ニ依リ下年期、新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス
 地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●國稅徵收法

(明治三十年三月法律第二十一號)

第一章 總則

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノ、外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ公課及債權ニ充ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一

納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(改正三十五年法律第三十六號)

- 一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ルトキ
- 二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ルトキ
- 三 強制執行ヲ受ケルトキ
- 四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 五 競賣ノ開始アリタルトキ
- 六 法人力解散ヲ爲シタルトキ
- 七 納稅人脫稅又ハ遁稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二

前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(改正四十四年法律第三十七號)

督促手數料延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手數料延滞金及滯納

處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先テ之ヲ徴收セス(同上)

第四條ノ三 相續開始ノ場合ニ於テハ關稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徴收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徴收スルコトヲ得(同上)

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス(同上)

第四條ノ四 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

第四條ノ五 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徴收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

第四條ノ六 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

四百十

其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(同上)

第四條ノ七 納稅ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

第四條ノ八 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

第五條 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勸令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徴收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徴收ノ費用トシテ其ノ徴收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其市町村ニ

交付ス(改正大正三年三月法律第十二號)

第六條 國稅ヲ徴收セントスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

第七條 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲メ時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徴收ヲ爲ササルコトアルヘシ

第八條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其免除ヲ爲スコトヲ得

第九條 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徴收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勸令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、滞納金ヲ徴收ス

第三章 滞納處分

第十條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ

財産ヲ差押フヘシ

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料延滞金及税金ヲ完納セサルトキ

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

第十一條 收稅官吏滞納處分ノ爲メ財産ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證明票ヲ示スヘシ

第十二條 差押フヘキ財産ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

第十三條 收稅官吏滞納者ノ財産ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

第十四條 收稅官吏財産ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財産ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日、前マテニ所有者タル證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ

第十五條 滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 左ニ掲グル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓地
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書付類
- 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
- 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

四百十二
延滞金、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及篋匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、篋匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第三者ノ家屋、倉庫及篋匣ニ滯納者ノ財產ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ收稅官吏ハ前項ニ準シ處分スルコトヲ得

前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ篋匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十一條 收稅官吏前條ノ處分ヲナストキハ

滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族人ナシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

二十二條 動産及有價證券ノ差押ハ收稅官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

二十三條 一 債權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手数料、延滞金、滯納處分費及稅金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

二十三條 二 債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收稅官吏ハ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付テモ亦同シ

二十三條 三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收稅官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

二十三條 四 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

二十四條 差押ヘタル動産、有價證券不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上グルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用
ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ
賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ
關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問
ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財産ノ差押、保管、運
搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨
及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付
ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滯納處
分費及税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯
納者ニ交付ス

賣却シタル物件、質權、抵當權ノ目的物タルト
キハ其代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納
處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツ
ルマテ債權者ニ交付シ尙ホ殘餘アルトキハ
之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質
權抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金
ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費ヲ徵
シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテ債權者ニ交
付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ

滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場
合ニ於テ會社財産ヲ以テ督促手數料延滞金、
滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無
限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ
交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シ
タルトキハ滯納義務及督促手數料延滞金滯納
處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財産ヲ占有ス
ル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ
爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿
脱漏消若ハ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契
約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本
條ヲ適用セス

第五章 附則

第三十三條

此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨ
リ施行ス(沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊
豆七島ニハ當分ニテ施行セス)
市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市
町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅
令ヲ以テ之ヲ指定ス
北海道水産物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村
ニ準ス

第三十四條

明治二十二年法律第九號國稅徵收
法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同
二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ
廢止ス

●國稅徵收法施行規

則(明治三十五年四月
勅令第三百三十五號)

第一條

收稅官吏國稅ヲ徵收セントスルトキハ
納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所
ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫
ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スル
コトヲ得

第二條

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官

吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ

市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ
納金額、納期日及約付場所ヲ記載シタル納稅
告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到
ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ
定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト
同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一
ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收
稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ

前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナル
トキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町
村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ
領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書
ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納稅期
後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ
税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ
地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出

スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滞納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲グルモノニシテ納期ニ至リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅
二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料、釀醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅
三 當該年分ノ自家用醬油製造

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前

二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ
第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發シタルトキハ手數料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ稅金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ稅金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限りニ在ラス(追加四十四年勅令第二八二號)
一 納稅告知書一通ノ稅金額二十圓未滿ナルトキ
二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ
三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ

爲シタルトキ

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手數料延滞金、滞納處分費及稅金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十三條 國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第十四條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十五條 差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滞納者ニ屬スル持分ニ就キ滞納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノ

トシテ處分スヘシ

第十六條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ(改正四十四年勅令第二八二號)

一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所
二 差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
三 差押ノ事由
四 調書ヲ作りタル場所、年月日

第十七條 國稅徵收法第二十一條ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ立會人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スヘシ

收稅官吏差押調書ヲ作りタルトキハ其ノ謄本ヲ滞納者及立會人ニ交付スヘシ但シ債權及所有權以外ノ財產ノミヲ差押ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之

ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ

爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所

二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ

他重要ナル事項(改正四十四年勅令第二八

二號)

三 入札又ハ競賣ノ場所、日時

四 開札ノ場所、日時

五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額

六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムル

トキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セザルトキハ其

ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於

テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルト

キハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間

ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不

相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價

四百十八

格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ

限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅

官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ

公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ヲシテ

權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ

收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシム

ヘシ(改正三十八年勅令第六七號)

前項ノ期間内ニ滯納者其ノ手續ヲ爲サザルト

キハ收稅官吏ハ滯納者ニ代リテ之ヲ爲スコト

ヲ得

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場

合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタ

ル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲ

シテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入

札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定

ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナ

キカ又ハ其ノ價格見積リ價格ニ違セザルトキ

ハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限

第三十二條 市制町村制ヲ施行セザル地方(稅

務署所在地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏

ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒類、酒精、

酒精含有飲料並醬油ノ造石稅及麥酒稅ヲ除

ク)ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ

納期内ニ完納セザル者アルトキハ戶長ハ本則

中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ

報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅

徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共

團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六

號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施

行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

●耕地整理ニ關シ地

方長官ヘ委任ノ件

(明治四十二年農商務省令第四十號)

第一條 耕地整理ニ關シ左ニ掲グル事項ハ之ヲ

整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

マテニ其ノ代金ヲ完納セザルトキハ收稅官吏

ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ

於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一條第二號乃

至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ

當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制

管理人、破産主任官又ハ清算人ニ督促手數料

延滞金、滯納處分費及滯納稅金ノ交付ヲ求ム

ヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ

差押フルコトヲ妨グス

第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官

吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納

者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有ス

ル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官

吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル

公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ム

ルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方

法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附則

- 一 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件
- 二 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル設計書若ハ規約ノ變更又ハ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ認可ニ關スル件
- 第二條 耕地整理法第五十一條第一項ニ規定シタル書類ハ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ
- 第三條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

●耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件

(四十二年十月勅令第二百三十一號)

- 第一條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼カムトスルトキハ整理施行者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

- 二 引繼カムトスル事業及其ノ説明
 - 三 引繼カムトスル事業ニ關スル權利義務ノ明細
 - 四 引繼カムトスル事業ノ爲一年間ニ要スル經費ノ概算
- 前項ノ認可申請書ニハ共同施行者過半數ノ同意又ハ總會ノ議決アリタルコトヲ證スル書面、引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合トノ協議一致ヲ證スル書面協議一致セザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第二條 前條ノ規定ニヨリ協議一致セザル事由ヲ記載シタル書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合ノ意見ヲ徵シタル後ニ非サレハ其ノ引繼ヲ認可スルコトヲ得ス
- 第三條 事業ノ引繼アリタル場合ニ於テ共同施行ニ依ル耕地整理ノ殘務結了シ又ハ耕地整理組合ノ清算結了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク耕地整理事業ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ニ引繼クヘシ但シ二以上ノ郡、市町村又ハ水利組合ニ事業ヲ引繼キタル場合ニ於テハ整理施行

- 者ノ申請ニ依リ地方長官ハ其ノ書類及帳簿ノ引繼ヲ受クヘキ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ヲ指定スヘシ
- 第四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更セムトスルトキハ總會ニ於テ普通水利組合規約ヲ議決シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 前項ノ許可申請書ニハ事業ノ現況ヲ記載シタル書面及總會ノ議事録ヲ添附スヘシ
- 第一項普通水利組合規約ノ議決ハ組合員三分ノ二以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

- 第五條 地方長官ハ耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルモノト認メタルトキハ事業ノ引繼ヲ命シ尚耕地整理組合ニ對シテハ普通水利組合ニ變更ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得
- 郡、市町村又ハ水利組合ハ地方長官ニ前項事業引繼ノ命令ヲ申請スルコトヲ得

附則
本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●耕地整理法ノ規定ニ依ル公共團體指定ノ件

(四十二年十月勅令第二百三十二號)

- 耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス
- 郡組合
- 市町村内ノ區、町村組合、町村學校組合及其ノ區
- 市制町村制ヲ施行セザル地ノ區町村内ノ部、町村組合、町村學校組合及其ノ區
- 水利組合
- 北海道土功組合

附則
本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法

(明治三十三年三月六日法律第二十九號)

- 第一章 總則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償
- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴願及訴訟

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

四百二十二

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
 - 二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業
 - 三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業
 - 四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
 - 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業
- 第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
- 第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ

地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ

検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内

省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主

務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者

ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急務ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得
軍事上臨時急務ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

四百二十四

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後

ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸內ニ立入ルコトヲ得

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作リタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面
二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目、收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應ゼス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

一 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘ

キ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得
前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得
收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ
裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレバ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從

來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ道路、溝渠、塙欄其ノ他ノ工作物、新築、改築増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス（但書追加大正三年三月法律第十五號）

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求

スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七節 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
左ニ掲ゲタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ

決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月內ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行為ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ

取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ先ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス
前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間內ニ終了スル見込

ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅二次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

ルコトヲ得ス
第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス
第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第八十三條 本法ノ規定ニ依リ訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則
第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出テ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴訟及訴訟
第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ナシタル事項ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物ノ處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用法協

四百三十三

議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

◎土地收用法施行令

(明治三十三年三月三十日勅令第九十九號)

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條第十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 御陵墓地及御料地
- 二 國有地
- 三 現ニ公用ニ供スル土地
- 四 社寺境内地
- 五 名所舊蹟及古墳墓

四百三十四

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公報ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調査ヲ作リタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下

二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下

三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ノ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ノ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地

四百三十五

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎土地收用法第六條

ニ基ツク命令ノ件

(明治三十三年三月勅令第百號)

- 第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス
- 第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス
- 第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス
- 第五條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了トス

了ス

- 第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
- 第六條 週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス
- 第七條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス
- 第八條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ內務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第九條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セザル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得
- 第十條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

- 第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス
- 第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ
- 第十三條 前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十四條 組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ
- 第十七條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

- 第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十七條 前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十八條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ
- 第十九條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場

所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能
ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ
送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作
ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ
事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土
地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過
シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲
ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願
法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テ
ハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地合同收用審査 會ニ關スル件

(明治三十三年三月勅令第百一號)

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ
關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受
クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ
請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長
官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審
査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條
ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査
會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官
之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ貢
擔スヘキモノノ中等等文官ニ非サル委員ノ旅
費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府
縣ノ負擔トス

附則
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第八十 五條第三項ニ基ツ ク命令ノ件

(明治二十三年三月勅令第百三號)
明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規
則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テ
ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地
收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用
ス

一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則
ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地

二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地
收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル
土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條
ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所
有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契
約ヲ爲シタル土地

●權利收用ニ關スル 件

(明治三十二年三月
法律第七十二號)

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有
權以外ノ權利ニ付キテハ土地收用法ノ規定ヲ準
用ス

●國有林野法

(明治三十二年三月
法律第八十五號)

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國
ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野
ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣
拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ
公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合
ハ此限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入
スルノ必要アルトキハ之カ組換去爲スコトヲ
得

組換去爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタ
ル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ
更ニ國有林野ニ編入ス

社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野
ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ
得

得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 市町村又ハ公立小學館ノ基本財産ニ充ツルトキ

四百四十

三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ

四 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ

五 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

六 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

七 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得

第九條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ
- 三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルトキ
- 四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年
- 二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年
- 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

- 一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ
- 二 府縣都市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、

溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第十七條 依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十八條 社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十九條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 國有造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ

四百四十一

契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十二條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部合ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル

四百四十二

國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂並其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●國有土地森林原野

下戻法(明治三十二年四月法律第九十九號)

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ハ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノ又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼ス

第五條 第二條ニ依リ下戻ヲ受ケタルモノト雖公用又ハ社寺境内ニ供セラルモノハ其ノ公用又ハ社寺境内ヲ廢シタル後ニアラサレハ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第六條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看做ス

府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クモ左ノ書面ノ一ヲ添附スルコトヲ要ス

一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下下附賣買讓與實入書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタル證アルモノ

六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタル證アルモノ

第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ足ルト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ下戻ヲ爲スヘシ

條四條 下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得ス

前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル

●河川法

(明治二十九年四月一日法律第七十一號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理
第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全

スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部又ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特別ノ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

ルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス
第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限
並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物
二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行為ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

- 一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
- 二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ
- 三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用者ハ占用ナ

四百四十六

許可スル爲ニ必要ナルトキ 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得 前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又

ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章

河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並 河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用

ニシテ其ノ府縣内ノ地租總額千分ノ二箇半ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額千分ノ二箇半ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得 前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ 災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依リ限ニ在ラス 工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川

ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助

ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘシ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ

使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下

級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ
改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航
料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其
ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超
過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償
其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ
以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ
地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分
スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認
メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有
者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從
ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲
又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防ス
ル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又
ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務
ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土
地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝
草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ

設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコト
ヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル
所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若
ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハ
シムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土
地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得
第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之
ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外
尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物
ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若
ハ輕減スル爲ニ必要ナル制院ハ命令ヲ以テ之
ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ
規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川
ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域
若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續
第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監
督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ
事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若
ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第三十五條 第三十六條ニ規定シタル事項並
此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關
シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體
ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河
川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域
及其ノ附屬物ノ認定若ハ濠帳ノ更正ヲナサシ
メ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ
職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法
律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス
若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スル
ノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜シ得サ
ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執
行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコト

ヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律
ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ

主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若
期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ
不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル
過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命ス
ルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發
スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメ
タル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目
的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ
得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ他ノ法律ニ基キテ發
スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及
過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタ
ル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ(國稅滯納處
分法)ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ
先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ
四百五十一

依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

四百五十二

シタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ「禁錮」ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナ

シタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依

リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十五條 河川ノ塞帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ
第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及「外國人居留地」内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

砂防法抄録

(明治三十年三月法律第二十九號)

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ
第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行為ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

四百五十三

ヲ命スルコトヲ得

第三十七條

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發
スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納
付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ
之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコト
ヲ得
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ
得ス

第三十八條

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發
スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及
過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタ
ル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處
分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用及過料ニ付行政廳ハ國稅ニ次キ先
取特權ヲ有スルモノトス
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ
依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテ
ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場
合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要
ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算
表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其
ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

四百五十四

第三十九條

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發
スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行
政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シ
テモ亦本條及前條ヲ準用ス
第四十條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務
ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ
一年ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

市區町村内土地ノ
字名改稱變更取扱

規定(明治四十四年三月)

府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

從來公稱スル市町村内地ノ字名ハ明治十四年
第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更ス
ヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ
改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規定ニ依
リ取扱フヘシ
一 市町村内地大字名(市制町村制施行ノ際分合
シタル舊區町村名、從前獨立町村内地ノ支郷
又ハ某組ト唱フル部落等ノ總稱)及市内ノ

二

町名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スル
トキハ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可
ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、
郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘ
シ

三

市町村内地ノ小字名(市内ノ町名ヲ除ク)ヲ改
稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ關
係アル地主ノ意見ヲ聞キ市町村會之ヲ議決
シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬
スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長
ハ意見ヲ副申スヘシ

四

前項ノ場合ニ於テ其ノ區域全部カ國有林野
ニ屬スルトキハ府縣知事之ヲ處分シ若其ノ
區域カ國有林野ノ外民有地ニ屬スルトキハ
關係アル市町村會及民有地主ノ意見ヲ聞キ
府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ
直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ
耕地整理施行ノ爲市町村内地ノ大字若ハ字ノ
名稱ヲ改メ又ハ其ノ區域ヲ變更スルノ必要
アルトキハ關係アル市町村會ノ意見ヲ聞キ
府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ
直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ

五

水面埋立地其ノ他新開地等新ニ字名稱ヲ付
スルトキハ第二項ノ例ニ依ルヘシ

六

市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴
訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其ノ區域ヲ
變更スヘキトキハ市參事會町村長第七項ノ
リテハ町村長ニ準スヨリ府縣知事ニ申報セ
シムヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡
長ヲ經由スヘシ

七

東京府伊豆七島ノ内八丈島及大島ヲ除ク外
並小笠原島ニ於テハ仍從前ノ手續ニ依ル其
ノ小字ノ名稱及區域ニ關スルモノハ府知事
ニ於テ處分スヘシ

八

第一項乃至第五項及第七項ノ許可又ハ處分
ヲ爲シタルトキ並第六項ノ申報ヲ受ケタル
トキハ府縣知事ハ直ニ官報ヲ以テ之ヲ公告
スヘシ

○明治四十四年三月十五日內務省訓令第三號

沖繩縣

從來公稱スル區町村内地ノ字名ハ明治十四年
第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更ス
ヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ

四百五十五

改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

一 區町村內ノ字名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ區町村會之ヲ議決シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

二 區町村內ノ小字ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞キ區町村會之ヲ議決シ縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

三 水面埋立地其ノ他新開地等新ニ字及小字ノ名稱ヲ付スルトキハ前二項ノ例ニ依ルヘシ

四 前各項ノ許可又ハ處分ヲ爲シタルトキハ縣知事ハ直ニ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

○明治四十四年三月十五日內務省訓令第四號
北海道廳
從來公稱スル區町村內土地ノ字名ハ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムテ得サル事由アリテ其ノ改稱變更ヲ必要トシ又新開地等新ニ字名ノ設定ヲ要スルトキハ北海道廳長官之

ヲ定ムヘシ
前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ官報ヲ以テ公告スヘシ
(參考)

○明治十四年九月二十二日太政官第八十三號
各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審判歴史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ候條漫ニ改稱變更不致悽可心得此旨相達候事
但實際已ムテ得サル分ハ時時內務省ヘ可伺出候事

官有財産管理規則

(明治二十三年十一月二十五日)
勅令第二百七十五號

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第七條 官有財産ノ貸付ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以内
 - 第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以内
 - 第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以内
 - 第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以内
- 第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタ

ル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損損失シタルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘシ

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサルハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル

森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得
營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川竝木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得
第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、

市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲
ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内
務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコ
トヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セ
ルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモ
ノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場
合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲
ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換
スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂
若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ
滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ
貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ
三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ
爲スヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一
日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其
ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ
但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所
管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度

開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ
國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス
第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書
ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ
第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價
第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル
最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格
アルモノハ其ノ價格
第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ
其ノ目錄價格
第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タ
ル財産
第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アル
モノハ其ノ條件
第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲グル官有財産
ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三
月三十一日ノ現在高チ以テ同年六月三十日マ
テニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産
ハ調査了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ
第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨ
リ施行ス

官有地取扱規則

(明治二十三年十一月二十五日
勅令第二百七十六號)

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大
臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結
登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大
臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルト
キハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内
務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移
サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付
セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手
續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾セントシ請フモノアル
トキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ
後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ
豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及
價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコ
トヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニ非サレハ
其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ
得ス
借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官
ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地
ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變
シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ
原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタル
モノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公
用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ
貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル
限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特
ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地
ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨
害トナラサル部分ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換
四百五十九

貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地率帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

官有地特別處分規

則(明治二十三年七月二十二日勅令第三百三十五號)

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競

四百六十

争ニ付セテ隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ

二 不用ニ屬スル官有地ニシテ其ノ評定價格四百圓以內坪數六百坪未滿ノモノヲ賣渡シ又ハ其ノ貸渡料一箇年四十圓以內貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡スコトキ但シ望人二名以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡スコトキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡スコトキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

北海道國有未開地處分法

(明治四十一年四月法律第五十七號)

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ

第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲メ土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ

付與ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無償貸付 十年
二 有償貸付 十五年

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユ

ルコトヲ得ス

第十二條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スコトヲ得

第十三條 賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セズ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルモノヲ除クノ外貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消スヘシ但シ借地料ハ之ヲ還付セズ

一 第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シ

四百六十二

タル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ著手セズ又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

二 第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ著手セズ又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十六條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ因リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價額ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償ス但シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評定價額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多キトキハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス

前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スヘキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十七條 自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂、貸付若ハ付與ノ處分ヲ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ

他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノハ國ノ所有ニ歸ス

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分ヲ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登録スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 拓殖上又ハ土地整理上必要アル場

合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本法ニ依リ處分スルコトヲ得

第二十二條 賣拂、貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス

第二十三條 賣拂ヒ又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命ジタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動產ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十四條 第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (四十年勅令

第四百四十五號ヲ以テ同

年七月一日ヨリ施行)

第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

四百六十三

舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特定地ニ關スル規定ヲ適用ス
舊法ニ依リ賣拂ヒ交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

●北海道舊土人保護

法(明治三十二年三月二日)
法律第二十七號

- 第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限リ無償下付スルコトヲ得
 - 第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス
 - 一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス
 - 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
 - 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ
- 前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

四百六十四

- 舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス
- 第三條 第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス
- 第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得
- 第五條 北海道舊土人ニシテ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ニハ藥價ヲ給スルコトヲ得
- 第六條 北海道舊土人ニシテ疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ從來ノ成規ニ依リ救助スルノ外仍之ヲ救助シ救助中死亡シタルトキハ埋葬料ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財産ノ收益ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス
- 第九條 北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニ

ハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得
第十條 北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財産ヲ管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財産ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ拒ムコトヲ得
北海道廳長官ノ管理スル共有財産ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

第十一條

北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若ハ十一日以上二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十二條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
第十三條 此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記之部

●一定ノ町村又ハ其

大字ノ土地登記簿ニ關スル件

(明治三十九年七月司法省令第十七號)
一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ニ關スル件左ノ通相定ム

- 第一條 一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ得
- 前項ノ町村又ハ其大字ハ地方裁判所長ノ具申ニ因リ司法大臣之ヲ定ム
- 第二條 前條ノ土地登記簿ヲ備ヘタル登記所ニハ地上權登記索引簿ヲ備フルコトヲ得
- 地上權登記索引簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ(雛形略)

●一定ノ町村及ヒ其大字ノ指定ノ件

(三十九年八月司法省告示第二十五號)
本年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ村及ヒ大字ヲ指定ス(大正四年十月司法省告示四百六十五)

第四十五號ヲ以テ改正

一、奈良縣大和國吉野郡四鄉村、小川村、川上村、十津川村、大字川津、折立、山手谷、高瀧、神下、那知合、櫻原、猿飼、桑畑、上湯川、天川村、大字洞川、川合、坪内、板尾、九尾、高見村、大字木津、平野、杉谷、谷尾、萩原、瀧野、日裏、野、野追川村、大字北股、北今西、大塔村、大字阪本、南吉野村、大字才谷、長谷、桂原、赤瀧、中莊村、大字喜佐谷、板尾、(四十二年五月二十一日司法省告示第二十八號) 明治三十九年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ大字ヲ指定ス

立木登記之部

立木ニ關スル法律

(四十二年四月二日法律第二十二號)

第四百六十六
第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立セシメタル樹木ノ集團ニシテ其所有者カ本法ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂フ
第二條 立木ハ之ヲ不動產ト看做ス
立木ノ所有者ハ土地ト分離シテ立木ヲ讓渡シ又ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得土地所有權又ハ地上權ノ處分ノ效力ハ立木ニ及ハス
第三條 立木ノ所有者ハ立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テモ當事者ノ協定シタル施業方法ニ依リ其ノ樹木ヲ採取スルコトヲ妨ケス
第四條 立木ヲ目的トスル抵當權ハ前條ノ規定ニ依リ採取ノ場合ヲ除クノ外其ノ樹木カ土地ヨリ分離シタル後ト雖其ノ樹木ニ付之ヲ行フコトヲ得
抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖前項ノ樹木ヲ競賣スルコトヲ得但シ其ノ競落代金ハ之ヲ供託スヘシ
樹木ノ所有者ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ競賣ノ免除ヲ申立ツルコトヲ得

樹木ノ所有者ハ抵當權者ニ對シテ一箇月以上ノ期間ヲ定メ競賣ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ抵當權者カ其ノ期間内ニ競賣ヲ爲ササルトキハ其ノ樹木ニ付抵當權ヲ行フコトヲ得ス
第一項ノ規定ハ民法第九十二條乃至第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條

立木カ土地ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ土地又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及地代ハ當事者ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六條

立木カ地上權者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ地上權又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ノ存續期間内ニ於テ其ノ土地ノ貸借借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及借賃ニ付テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テ地上權ノ存續期間ノ定ナキトキハ其ノ期間ハ當事者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

民法第六百四條及第六百十二條ノ規定ハ第一項ノ貸借借ニ之ヲ適用セス

第七條

前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ之ヲ準用ス
第八條 地上權者又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者又ハ賃借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ス

第九條

立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者カ樹木ノ運搬ノ爲土地ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ立木ノ競落人ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ對價ヲ支拂フヘシ
前項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第十條

第二條第三項及第三條乃至第九條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス
第十一條 土地又ハ地上權カ質權ノ目的タル場合ニ於テハ其ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 各登記所ニ立木登記簿ヲ備フ

不動産登記法第十四條第二項及第十九條ノ規定ハ前項ノ登記簿ニ之ヲ準用ス

第十三條 立木登記簿ハ一箇ノ立木ニ付キ一用紙ヲ備フ

第十四條 立木登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス乙區事項欄ニハ先取特權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十五條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

四百六十八

一 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號

二 樹種、數量及樹齡

第十六條 不動産登記法第六條及第七條ノ規定ハ所有權保存ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十七條 所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ保存登記ニ付土地ノ登記簿上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十八條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ土地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其ノ登記ニ抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ此ノ限ニ在ラス

不動産登記法第八十三條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所

ヲ記載スヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年五月二十日ヨリ施行)

●立木登記規則

(明治四十三年四月司法省令第五號)

第一條 明治四十二年法律第二十二號ニ依ル立

木ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 立木登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 立木共同人名簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 立木登記見出帳ハ附錄第三號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 立木登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテテ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ立木ノ存スル土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ其ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若樹木ノ生立スル部分ヲ表示スヘキ名稱

四百六十九

有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地ノ登記用紙中表示欄ニ立木ノ登記番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ立木ノ區分ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ立木ノ存スル土地ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

立木ノ登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ前項ノ規定ニ依リテ記載シタル登記番號ヲ朱抹シ登記官吏捺印スヘシ

第二十條 立木ノ分合若ハ滅失アリタルトキ又

ハ第十五條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ニ變更アリタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ但シ樹木ノ發生若ハ成長又ハ第三條ノ施業方法ニ依ル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

立木ノ存スル土地ノ地目、字、番號又ハ段別ニ變更アリタルトキ亦前項ニ同シ

不動産登記法中建物ノ滅失及其ノ表示ノ變更ノ登記ニ關スル規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條 立木ヲ目的トスル抵當權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動産登記法第十七條ニ掲ケタル事項ノ外施業方法

又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記入スヘシ但シ立木ノ存スル土地カ二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少ナキ番號ノ部ニノミ記入スヘシ

既登記ノ地上權者ノ申請ニ因リ立木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ地上權ノ順位番號ヲモ記入スヘシ

第六條 第四條ニ定メタル雜形ノ見出帳ヲ使用スルヲ不便トスル地方ニ在リテハ地方裁判所長ハ特別ノ見出帳ヲ調製セシムルコトヲ得

前項ノ見出帳ノ雜形、之ヲ用ウヘキ登記所及其ノ記入手續ニ付テハ豫メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 不動産登記法施行細則第三十條及第三十一條ノ規定ハ立木登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交附又ハ立木登記簿若ハ附屬書類ノ閲覧ノ請求ニ之ヲ準用ス但シ樹木ノ生立スル部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ申請書ニ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記載スヘシ

第八條 樹木ノ數量、材積及本數ヲ記載スヘシ但シ三十年生以下ノ樹木ニ在リテハ本數ヲ記載スルヲ以テ足ル

材積ノ單位、呼稱及測定方法ハ各地方ノ慣習ニ從フ

第九條 一集團ニ二種以上ノ樹木生立スル場合ニ於テハ各種毎ニ材積及本數ヲ記載スヘシ

第十條 樹齡ハ一集團ニ年齡ノ異ナル樹木ノ生立スル場合ニ於テハ何年生以上何年生以下ト記載スルヲ以テ足ル

第十一條 樹種、數量及樹齡ヲ申請書ニ記載スル場合ニ於テハ之ヲ調査シタル年度ヲ記載スヘシ

第十二條 既登記ノ地上權者カ立木ニ付所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ地上權ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第十三條 登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ハ附錄第四號雜形ニ準シテ調製シ之ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

一 立木所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號
二 地目及段別
三 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其

ノ名稱又ハ番號

四 立木ノ存スル土地又ハ土地ノ部分ノ境界ニ道路、河川、湖海、沼池其ノ他境界ノ目標タルヘキモノアルトキハ其ノ名稱及位置

五 隣接地ノ番號地目及其ノ所有者ノ氏名
六 立木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ存スル場合ニ於テハ其ノ部分ニ隣接スル他ノ部分ノ表示

七 隣接スル土地又ハ土地ノ部分ニ生立スル樹木ノ所有者カ土地ノ所有者ト異ナルトキハ其ノ樹木ノ所有者ノ氏名

第十四條 市區町村ニ地方長官ノ認可ヲ得テ作製シタル立木ニ關スル實測圖面及公簿ノ備アルトキハ登記ノ申請書ニ其ノ圖面及公簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ此ノ圖面ハ前條ニ掲ゲタル事項ヲ具備スルコトヲ要ス

第十四條ノ二 登記所カ市區町村ヨリ實測圖面ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ(追加大正元年八月省令第一號)

第十五條 抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ記載スヘキ施業方法カ詳密ニ渉ルトキハ申請書ノ記

載ニ代ヘ其ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十六條 前條ノ添附書面ニハ申請人ノ署名捺印シ且其ノ書面カ數葉ニ渉ルトキハ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル

第十七條 第十五條ノ添附書面ハ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ且之ニ丁數ヲ附スヘシ

第十八條 第十五條ノ場合ニ於テ登記官吏カ乙區事項欄ニ抵當權設定ノ登記ヲ爲ストキハ施業方法ヲ記載シタル添附書面ノ提出アリタル旨ヲ記載シ登記ノ末尾ニ其ノ書面ノ綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載シ且添附書面ニ申請書受附ノ年月日受附番號、登記番號及順位番號ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ヲ爲シタルトキハ添附書面ニ掲ゲタル施業方法ハ乙區事項欄ニ記載セラレタルモノト看做ス

第十九條 添附書面ニ掲ゲタル施業方法ノ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ變更ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ前條ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條 登記官吏カ添附書面ニ掲ケタル施業方法ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ添附書面中變更シタル事項ヲ朱抹シ其ノ餘白ニ變更ヲ記載シタル書面ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ

第二十二條 前三條ノ規定ハ添附書面ニ掲ケタル事項ノ更正ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ明治四十二年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附錄第一號乃至第三號雜形及ヒ第四號圖式ハ之ヲ略ス)

附則 (大正五年十二月省令第二十六號帳簿雜形ノミ改正ニ對スルハ之ヲ略ス)

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前調製シタル帳簿ハ本令施行後ト雖之ヲ使用スヘシ
見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ雜形ニ依ルヘシ

四百七十二

●立木ノ先取特權ニ關スル件

(明治四十三年四月法律第五十六號)

他人ノ土地ノ上ニ立木ヲ有スル者カ土地ノ所有者ニ對シ樹木伐採ノ時期ニ於テ其ノ樹木ノ價格ニ對スル一定ノ割合ノ地代ヲ支拂フヘキ契約ヲ爲シタルトキハ土地ノ所有者ハ地代ニ付其ノ立木ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス但シ民法第三百二十九條第二項ノ適用ヲ妨ケス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年五月二十日ヨリ施行)

第二編 商事法規

通法之部

●商法(明治三十二年三月法律第四十八號)

第一編 總則

第一章 法例

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商業帳簿

第六章 商業使用人

第七章 代理商

第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

第一節 設立

第二節 會社ノ内部ノ關係

第三節 會社ノ外部ノ關係

第四節 社員ノ退社

第五節 解散

第六節 清算

第三章 合資會社

第四章 株式會社

第一節 設立

第二節 株式

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第二款 取締役

第三款 監査役

第四節 會社ノ計算

第五節 社債

第六節 定款ノ變更

第七節 解散

第八節 清算

第五章 株式合資會社

第六章 外國會社

第七章 罰則

第三編 商行爲

第一章 總則

第二章 賣買

第三章 交互計算

第四章 匿名組合

第五章 仲立營業

四百七十三

四〇六 四〇七 四〇八 四〇九 四一〇 四一一 四一二 四一三 四一四 四一五 四一六 四一七 四一八 四一九 四二〇 四二一 四二二 四二三 四二四 四二五 四二六 四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一 四三二 四三三 四三四 四三五 四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇 四四一 四四二 四四三 四四四 四四五 四四六 四四七 四四八 四四九 四五〇 四五二 四五三 四五四 四五五 四五六 四五七 四五八 四五九 四六〇 四六一 四六二 四六三 四六四 四六五 四六六 四六七 四六八 四六九 四七〇 四七一 四七二 四七三 四七四 四七五 四七六 四七七 四七八 四七九 四八〇 四八一 四八二 四八三 四八四 四八五 四八六 四八七 四八八 四八九 四九〇 四九一 四九二 四九三 四九四 四九五 四九六 四九七 四九八 四九九 五〇〇

四〇九 四一〇 四一一 四一二 四一三 四一四 四一五 四一六 四一七 四一八 四一九 四二〇 四二一 四二二 四二三 四二四 四二五 四二六 四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一 四三二 四三三 四三四 四三五 四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇 四四一 四四二 四四三 四四四 四四五 四四六 四四七 四四八 四四九 四五〇 四五二 四五三 四五四 四五五 四五六 四五七 四五八 四五九 四六〇 四六一 四六二 四六三 四六四 四六五 四六六 四六七 四六八 四六九 四七〇 四七一 四七二 四七三 四七四 四七五 四七六 四七七 四七八 四七九 四八〇 四八一 四八二 四八三 四八四 四八五 四八六 四八七 四八八 四八九 四九〇 四九一 四九二 四九三 四九四 四九五 四九六 四九七 四九八 四九九 五〇〇

第六章	問屋營業	四四二
第七章	運送取扱營業	四四三
第八章	運送營業	四四三
第一節	物品運送	四四三
第二節	旅客運送	四四三
第九章	寄託	四四六
第一節	總則	四四六
第二節	倉庫營業	四四七
第十章	保險	四五一
第一節	損害保險	四五一
第一款	總則	四五一
第二款	火災保險	四五六
第三款	運送保險	四五七
第二節	生命保險	四五七
第四編	手形	四五九
第一章	總則	四五九
第二章	爲替手形	四六〇
第一節	振出	四六〇
第二節	裏書	四六一
第三節	引受	四六一
第四節	擔保ノ請求	四六三
第五節	支拂	四六四

第四百七十四	第六節 償還ノ請求	四六五
第四百七十五	第七節 保證	四六六
第四百七十六	第八節 參加	四六六
第四百七十七	第一款 參加引受	四六六
第四百七十八	第二款 參加支拂	四六六
第四百七十九	第九節 拒絕證書	四六九
第四百八十	第十節 爲替手形ノ複本及ヒ贖本	四七〇
第四百八十一	第三章 約束手形	四七一
第四百八十二	第四章 小切手	四七三
第四百八十三	第五編 海商	四七三
第四百八十四	第一章 船舶及ヒ船舶所有者	四七四
第四百八十五	第二章 船員	四七四
第四百八十六	第一款 船長	四七四
第四百八十七	第二款 海員	四七五
第四百八十八	第三章 運送	四八〇
第四百八十九	第一節 物品運送	四八二
第四百九十	第一款 總則	四八三
第四百九十一	第二款 船荷證券	四八三
第四百九十二	第二節 旅客運送	四八七
第四百九十三	第四章 海損	四八七
第四百九十四	第五章 海難救助	四八九
第四百九十五	第六章 保險	四九三

第七章 船舶債權者
商法

第一編 總則

第一章 法例
 第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス
 第二條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ本法ノ規定ヲ適用ス
 第三條 當事者ノ一方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス
 第二章 商人
 第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
 第五條 未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ其會社ノ業務ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス
 第七條 法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス(改正四十四年法律第七十三號)

四七

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)
 第八條 戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス
 第三章 商業登記
 第九條 本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス
 第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス
 第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第十二條 登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス登記及ヒ公告ノ後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ亦同シ
 第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セサリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十四條 登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

第二十三條 前條ノ規定ハ營業ノミチ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ登記スルコトヲ得ス

第二十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章 商業帳簿

第二十八條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引其他財産ニ影響ヲ及ボスヘキ一切ノ事項ヲ整理且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

第二十九條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

第二十六條 動産、不動産、債權、債務其他ノ財産ノ總目錄及貸借方ノ對照表ハ商人ノ開業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十七條 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社トヲ得ス(同上)

第三十一條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十二條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十三條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十四條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十五條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十六條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十七條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

タル意思表示ハ主人ニ對シテ其效力ヲ生ス(同上)

第三十一條 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定メタル事項及ヒ其變更並ニ消滅亦同シ(改正同上)

第三十二條 支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス支配人カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十三條 商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スルコトヲ得番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使

用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト推定ス

第三十五條 本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

第七章 代理商

第三十六條 代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十七條 代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス第三十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ代理商カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス第三十九條 物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受ケル權限ヲ有ス

第四十條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メサリシト

キハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルト否トナ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

第二編 會社

第一章 總則

第四十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行爲ヲ爲スヲ業トセサルモノ之ヲ會社ト看做ス(追加同上)

第四十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

第四十四條 會社ハ之ヲ法人トス

會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第四十四條ノ二 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社

員ト爲ルコトヲ得ス(同上)

第四十四條ノ三 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得(同上)

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第七十七條、第二百九條及ヒ第二百四十四條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス(同上)

第四十五條 會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條 會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ス

第四十七條 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲ササル時ハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得但正當ノ事由アル時ハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ得

第四十八條 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ

請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第四十八條ノ二 本編ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス(同上)

第二章 合名會社

第一節 設立

第四十九條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 商號
- 三 社員ノ氏名、住所
- 四 本店及ヒ支店ノ所在地
- 五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第五十一條 會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

七 數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定(同上)

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第五十二條 會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ二週間内ニ前條

第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 會社ノ内部トノ關係

第五十四條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第五十七條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半數

ヲ以テ之ヲ決ス

第五十八條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第五十九條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレバ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 會社ノ外部ノ關係

第六十一條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ

會社ヲ代表スヘキ社員ナ定メガルトキハ各社員會社ヲ代表ス

第六十一條ノ二 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

第三十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第六十二條 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス

第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

四百八十二

第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第四節 社員ノ退社
第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時間ヲ定メサリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トテ問ハス己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 前條ニ掲ゲタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス
一 定款ニ定メタル事由ノ發生
二 總社員ノ同意

三 死亡

四 破産

五 禁治産

六 除名

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ
二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ
四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ

五 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ
第七十一條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ

受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用非タルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第七十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節 解散
第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三 總社員ノ同意
四 會社ノ合併
五 社員カ一人ト爲リタルコト
六 會社ノ破産
七 裁判所ノ命令

第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

四百八十四

前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十條 會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコト

ヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得

第八十三條ノ二 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得(同上)

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第八十三條ノ三 前條ノ場合ニ於テ會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合名會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合資會社ニ付テハ第七十七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第八十三條ノ四 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ有限責任社員ヲ加入セシメ之ヲ合資會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ合資會社ト爲リタル時ヨリ二週間内ニ前條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第六節 清算

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス(改正同上)

第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第八十九條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(同上)

一 清算人ノ氏名、住所
二 會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名

三 數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第九十一條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ終了
二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟

三 殘餘財産ノ分配
會社ヲ代表スヘキ清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス(同上)

清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條ノ二 會社ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス(追加同上)

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ

四百八十六

テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス(同上)

第九十二條 會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラシ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス(改正同上)

第九十三條ノ二 第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス(追加同上)

裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ其清算人ハ各自會社ヲ代表ス(同上)

第九十四條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ負債對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス

第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過

多數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十七條 第九十條ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス(改正同上)

第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ二 會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(追加同上)

第九十九條ノ三 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地

方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(同上)

數箇ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及ヒ裁判ハ合併シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第九十九條ノ四 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス(同上)

原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(同上)

第九十九條ノ五 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第九十九條ノ六 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス(同上)

設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボサス(同上)

第一百條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合

四百八十七

ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス(改正同上)

第百一條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及

ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場

合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記

ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了

ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコト

ヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定

ム

第百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續

人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ

行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ

本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後

五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財

産尙ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シ

テ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

第百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任

社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場

合テ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第百六條 合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ掲ケ

タル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナ

ルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百七條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間

内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一

條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ

有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第百八條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミ

ヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナ

キトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義

務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行

ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第百十條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執

行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ

過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第百十一條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於

テ營業時間内ニ限り會社ノ財産目録及ヒ貸借

對照表ノ閲覧ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財

産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社

員ノ請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會

社財産ノ狀況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第百十二條 有限責任社員ハ無限責任社員全員

ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他

人ニ讓渡スコトヲ得

第百十三條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ

爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲

シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無

限責任社員ト爲ルコトヲ得

第百十四條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ

會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メサルト

キハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第百十五條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行

シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第百十六條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社

員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其

社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト

同一ノ責任ヲ負フ

第百十七條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ

其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ

因リテ退社セズ

第百十八條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限

責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但

無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ

會社ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ

前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ

支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ

登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一

項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條ノ二 合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以

テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコト

ヲ得此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用

ス(追加同上)

第四章 株式會社

第一節 設立

第百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發

起人アルコトヲ要ス

第百二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項

ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

- 四 一株ノ金額
- 五 取締役カ有スヘキ株式ノ數
- 六 本店及ヒ支店ノ所在地
- 七 會社カ公告ヲ爲ス方法
- 八 發起人ノ氏名、住所

第二百一十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セザリシトキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九號ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效ナシ
一 存立時期又ハ解散ノ事由
二 株式ノ額面以上ノ發行
三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數
五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第二百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ニ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滞ナク株主ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二百二十四條 取締役ハ其選任後遲滞ナク第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤテ調査セシムル爲メ檢査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
裁判所ハ檢査役ノ報告ヲ聽キ第三百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第二百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
第二百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通シ其引受クヘキ株式ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス(改正同上)
株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 定款作成ノ年月日
二 第二百二十條及ヒ第二百二十二條ニ掲ケタル

事項

- 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
 - 四 第一回拂込ノ金額
 - 五 一定ノ時期マテニ會社カ成立セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト(追加同上)
- 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第二百二十六條ノ二 第七十二條ノ二ノ規定ハ株式申込人又ハ株式引受人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス(同上)
- 第二百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ
- 第二百二十八條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス
第一回拂込ノ金額ハ株主ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス
- 第二百二十九條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

事項

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第三百十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但し其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得

發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百十一條 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス
創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス

第五百十六條第一項、第二項、第六十一條第

三項、第四項及第七百六十二條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第三百三十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第三百三十三條 創立總會ニ於テハ取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第三百三十四條 取締役及監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各株ニ付キ第三百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 第三百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十五條 創立總會ニ於テ第三百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外

四百九十二

ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第三百三十六條 引受ナキ株式又ハ第三百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連

帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキト亦同シ

第三百三十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百三十八條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲スコトヲ得

第三百三十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第四百十條 (削除同上)

第四百十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第三百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額

六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率

七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

八 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名(追加同上)

九 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定(同上)

第五十一條第二項、第三項、第五十二條及ヒ第七十三條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第四百二十二條ノ二 發起人カ會社ノ設立ニ關シ

其任務ヲ怠リタルトキハ其發起人ハ會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス(同上) 發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其發起人ハ第三者ニ對シテモ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス(同上) 第四百二十二條ノ三 會社カ成立セサル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付キ連帶シテ其責任ヲ負ス(同上) 前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス(同上) 第四百二十二條ノ四 取締役又ハ監査役カ第三百三十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負スヘキ場合ニ於テ發起人モ亦其責任ヲ負スヘキトキハ其取締役、監査役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス(同上)

第二節 株式

第四百十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第四百十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對シ

抗スルコトヲ得ス

第四百四十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

第四百四十六條 株式ノ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第四百四十七條

株式ハ第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株式ハ無効トス但株式ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百四十八條

株式ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日

三 資本ノ總額

四 一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株式ニ記載スルコトヲ要ス

第四百四十九條

株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ヲクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但第四百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十條

記名株式ノ移轉ハ取得者ノ姓名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株式ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(改正同上)

第四百五十一條

會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス 株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第四百五十二條

株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更

ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其

期間内ニ之ヲ爲ササルキトハ株主ノ權利ヲ失

フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期

間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ

失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知ス

ヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス(追加同上)

第四百五十三條

會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利

ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ

對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘ

キ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テ

ハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人

株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ

競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リ

テ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從

前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコト

ヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セ

サルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請

求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以

テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百五十三條ノ二

前條第一項ノ規定ニ依リ株

主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滯ナク

其株主ノ姓名、住所及ヒ株式ノ番號ヲ公告ス

ルコトヲ要ス(同上)

第四百五十四條

第四百五十三條ニ定メタル讓渡人

ノ責任ハ讓渡人株主名簿ニ記載シタル後二年

ヲ經過シタルトキハ消滅ス(改正同上)

第四百五十五條

株金全額ノ拂込アリタルトキハ

株主ハ其株式ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求ス

ルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株式ヲ記名式

ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第四百五十五條ノ二

無記名式ノ株式ヲ有スル者

カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ

行使ニ必要ナル員數ノ株式ヲ會社ニ供託スル

コトヲ要ス(追加同上)

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第四百五十六條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二

四百九十五

週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
 前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(改正同上)
 會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス
第二百五十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ召集スルコトヲ要ス
 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ召集スルコトヲ要ス
第二百五十八條 (削除同上)
第二百五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ召集ス
第六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得(改正同上)
 取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其召集ヲ爲スコトヲ得

第六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(追加同上)
第六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス(改正同上)
 株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス
 總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス
第六十二條 各株主ハ一株ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得
第六十三條 總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テ之ヲ其決議ノ無効ヲ主張スルコトヲ得(同上)
 株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタル

トキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又株主カ總會ニ出席セサル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會召集ノ手續法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得(同上)
第九十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)
第六十三條ノ二 決議無効ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス(追加同上)
 口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス(同上)
 訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス(同上)
第六十三條ノ三 株主カ決議無効ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主カ取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス(同上)
第六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其決議ヲ無効トスル判決力確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

其登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)
第二款 取締役
第六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス
 會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ(同上)
第六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス
第六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸長スルコトヲ妨ケス(改正同上)
第六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
第六十七條ノ二 取締役ノ任務カ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ退任シタル取締役ハ破産及ヒ禁治産ノ場合ヲ除ク外新ニ選任セ

ラレタル取締役カ就職スルマテ仍ホ取締役ノ
權利義務ヲ有ス(追加同上)

第六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ
株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ
定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取
締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メヌ又ハ數人

ノ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共
同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキ

ハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス(改正同上)

第三十條ノ二第二項及第六十二條ノ規定ハ取
締役ニ之ヲ準用ス(同上)

第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議錄
ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及ヒ社

債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテ
モ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ

得

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

- 一 株主ノ氏名、住所
- 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ
年月日
- 四 各株式ノ取得ノ年月日
- 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數
番號及ヒ發行ノ年月日

- 一 株主ノ氏名、住所
- 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ
年月日
- 四 各株式ノ取得ノ年月日
- 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數
番號及ヒ發行ノ年月日

第七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對スル通知又
ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又
ハ其者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以
テ足ル(追加同上)

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ
時ニ到達シタルモノト看做ス(同上)

第七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載ス
ルコトヲ要ス

- 一 社債權者ノ氏名、住所
- 二 債券ノ番號
- 三 社債ノ種類
- 四 各社債ノ金額
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及ヒ期限
- 七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルト

キハ其拂込ノ金額及ヒ時期(追加同上)隨テ
舊第七號ヲ第九號トナシ以下順次繰下)

八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ
年月日(同上)

九 債券發行ノ年月日

十 各社債ノ取得ノ年月日

十一 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其
數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十四條 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタル
トキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ

之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能
ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産

宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ
非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業

ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業
ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ル

コトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商
行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會

社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲
ヲ知りタル時ヨリ二个月間之ヲ行ハサルトキ
ハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ
亦同シ

第七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タル
トキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取
引ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民法第百八
條ノ規定ヲ適用セス(改正同上)

第七十七條 取締役カ其任務ヲ怠リタルトキ
ハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ
責ニ任ス(同上)

第七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ
訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ
否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ
當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ
會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ
提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ

四百九十九

因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(同上)
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス
第七十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款 監査役

第八十條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

第八十一條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第八十二條 監査役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリト認メタルトキハ其召集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第八十三條 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第八十四條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼スルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ

取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第八十六條 監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトキハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス(同上)

第八十七條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ

會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(同上)

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第八十八條 (削除同上)

第八十九條 第六十四條、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第六十七條及ヒ第六十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第九十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

- 一 財産目錄
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第九十二條 取締役ハ第九十條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一二達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但

其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得ス
前項ニ掲ゲタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九十七條 利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(同上)

第五節 社債

第九十九條 社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第一百條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス
最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財力前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第一百一條 會社ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシムタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス(追加同上)

第一百二條 各社債ノ金額ハ二十圓ニ下ルコトヲ得ス
第一百三條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第二百三條

社債ノ募集ニ應セントスル者ハ社債申込證ニ通シ其引受クヘキ社債ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス(改正同上)

社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

一 會社ノ商號
二 第七十三條第三號乃至第七號ニ掲ゲタル事項

三 社債發行ノ價額又ハ其最低價額
四 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

五 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

第二百三條ノ二

前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セス社債募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ(追

加同上

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク各社債ニ付キ其金額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス(改正同上)

第二百五條ノ二 社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得(追加同上)

第二百四條ノ三 取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(同上)

一 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ゲタル事項
二 各社債ニ付キ拂込ミタル金額

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス(同上)
外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタルトキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス(同上)

第二百五條

債券ハ社債全額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス(改正同上)

第二百六條

記名社債ノ移轉ハ取得者ノ氏名、住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第二百七條

第六節 定款ノ變更
第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

第二百九條

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第二百九條

定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス(改正同上)

シテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス(改正同上)

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一ヶ月内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス(同上)

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百十條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス
第二百十一條 會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス
第二百十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ボス

サルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト
數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及ヒ各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第二百十三條

會社カ其資本ヲ増加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第九十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百十四條

監査役ハ左ニ掲ゲタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス
一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
二 各新株ニ付キ第九十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
三 (削除同上)

第二百十五條

株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十六條

引受ナキ株式又ハ第九十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連

ハキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス
優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス
第二百十二條ノ二 會社カ其資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本増加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス(追加同上)

第二百十二條

株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

- 一 會社ノ商號
二 増加スヘキ資本ノ總額
三 資本増加ノ決議ノ年月日
四 第一回拂込ノ金額
五 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨
六 前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項
七 優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
八 一定ノ時期マテニ資本増加ノ登記ヲ爲サ

帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務
ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第二百十七條 會社ハ第二百十三條ノ規定ニ依
リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間
内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ
登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ總額
二 資本増加ノ決議ノ年月日
三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額
四 優先株ヲ發行シタルトキハ其種類及ヒ其
各種ノ株式ノ株數(改正同上)

第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
(追加同上)

第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記
ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又
ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス(改正同上)

第二百十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第
一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ
爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス
優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株
券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百二十六條第一項、第三項、第
二百二十七條ノ規定ニ從フニ非サルハ之ヲ爲ス
コトヲ得ス

第二百二十條ノ規定ニ從フニ非サルハ之ヲ爲ス
コトヲ得ス

第二百二十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散
ス

一 第七十四條第一號、第二號、第四號、第六
號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由
二 株主總會ノ決議
三 株主カ七人未滿ニ減シタルコト

第二百二十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ
第二百九條ノ規定ニ從フニ非サルハ之ヲ爲ス
コトヲ得ス

第二百二十三條 (削除同上)

第二百二十四條 會社カ解散シタルトキハ破産
ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シ
テ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタ
ル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百二十五條 第七十六條及第七十八條乃至
第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條 第七十六條及第七十八條乃至
第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會
社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照
表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求
ムルコトヲ要ス(第二項削除同上)

第二百二十八條 清算人ハ財産目錄、貸借
對照表及ヒ事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日
五百七

第二百二十九條 會社カ解散シタルトキハ合併
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
任ス

第二百三十條 會社カ解散シタルトキハ合併
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
任ス

第二百三十一條 會社カ解散シタルトキハ合併
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
任ス

第二百三十二條 會社カ解散シタルトキハ合併
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
任ス

第二百三十三條 會社カ解散シタルトキハ合併
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十六條ノ二乃至第三百三十條、第四百十二
條及ヒ第四百十七條第二項ノ規定ハ新株發行
ノ場合ニ之ニ準用ス(同上)

第二百三十七條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議
ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スル
コトヲ要ス

第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ
場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十八條ノ二 資本減少ノ爲メ株式ヲ併合
スヘキ場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ
期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及ヒ其期
間内ニ之ヲ提供セサルトキハ株主ノ權利ヲ失
フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但其期間ハ三個
月ヲ下ルコトヲ得ス(追加同上)

第二百三十九條ノ三 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十一條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十二條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十三條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十四條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十五條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十六條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十七條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十八條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

第二百四十九條 會社カ前條ニ定メタル手續
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式
ヲ競賣シ且株數ニ應ジテ其代金ヲ從前ノ株主
ニ交付スルコトヲ得ス(追加同上)

ヨリ一週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス(追加同上)

第二百二十八條 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十九條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社力優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十條 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムルコトヲ要ス(第二項削除同上)

第二百三十一條 (削除同上)

第二百三十二條 會社力事業ニ著手シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(改正同上)

第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及ヒ第六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第二百三十三條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第一百五十七條乃至第一百六十條ノ二、第一百六十三條乃至第一百六十三條ノ四、第一百六十四條第二項、第一百六十七條ノ二、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十六條乃至第一百七十九條、第一百八十一條、第一百八十三條乃至第一百八十七條、第一百九十一條乃至第一百九十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第五章 株式合資會社

第二百三十五條 株式合資會社ハ無限責任社員

號、第四號、第五號及ヒ前條ニ掲ケタル事項(同上)

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

第二百三十九條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百四十條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 監査役ハ第三百三十四條第一項及ヒ第三百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百四十二條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百一十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第四百一十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項

五百九

ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百三十六條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互ノ關係

二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係

三 無限責任社員ノ退社

此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十七條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 第二百一十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第二百三十八條 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一

二 株金ノ總額

三 無限責任社員ノ氏名、住所

四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及

ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタ

ルトキハ其氏名

六 監査役ノ氏名、住所

七 數人ノ無限責任社員カ共同シ又ハ無限責

任社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘ

キコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規

定(追加同上)

第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社

員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用

ス但第百六十四條乃至第百六十八條、第百七

十五條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラ

ス

第二百四十四條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意

ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無

限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ

株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用

ス

第二百五十條 第百二條ノ規定ハ株式合資會社

ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條 清算人ハ第百二十七條、第

二百二十七條ノ二及ヒ第百三十條ニ定メタ

ル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社

員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス(改正同上)

第二百五十二條 株式合資會社ハ第百四十四

條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會

社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會

ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決

議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社

員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權

ヲ行フコトヲ得

第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第

八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用

ス(同上)

第二百五十四條 (削除同上)

第六章 外國會社

第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同

一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十三條ノ場合

ハ此限ニ在ラス

第二百四十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シ

タル場合ニ於テ株主ハ第百九條ニ定メタル

決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコ

トヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要

ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第百十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ

準用ス

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合

併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタ

ル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又

ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シ

タル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ

此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過

半數ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社

員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト

同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其

準用ス

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ

タルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最

モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ

爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日

本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト

同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ

準用ス

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定

ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタル

トキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨ

リ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店

ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記

ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認ス

ルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ

於テ商業ヲ營ムチ以テ主タル目的トスル會社

ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ

設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第百四十七條、第百四十九條、

第百五十一條

五百十一

第五百五十條、第五百五十五條第一項、第二百五十七條第一項、第二百六條、第二百七條及二百七十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及ヒ其株式又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス(改正同上)

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

一 會社ノ設立若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル拂込額ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ

五百十二

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス(同上)

第二百六十二條

發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(同上)

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 檢査役ノ調査ヲ妨ゲタルトキ

四 第二百五十一條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ

五 第五百五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第九十四條ノ規定ニ違反シ準備金ヲ積立テサルトキ

八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ第二百五條第一項ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ

九 第六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

十 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ

十一 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

十二 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

第二百六十二條ノ二 發起人、會社ノ業務ヲ執

行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(追加同上)

一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四 本編ノ規定ニ依ル檢査又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ

五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ

六 第二百二十六條第二項、第二百三條第二項、第二百二十二條ノ三第一項及ヒ第二百三十八條第二項ノ規定ニ違反シ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百七十七條第一項又ハ第二百七十七條第

三項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルト
 八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セ
 ス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議錄、
 財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報
 告書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ
 利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店
 ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載
 セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第
 二項ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ招集セサル
 トキ
 第二百六十二條ノ三 第四十四條ノ三第二項ノ
 規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用
 ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス(同上)
 第三編 商行爲
 第一章 總則
 第二百六十三條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行
 爲トス
 一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、
 不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取

得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲
 二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ
 供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得
 ヲ目的トスル行爲
 三 取引所ニ於テスル取引
 四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲
 第二百六十四條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシ
 テ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ貸金
 ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服ス
 ル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス
 一 貸貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動
 産ノ有價取得若クハ貸借又ハ其取得若クハ
 貸借シタルモノノ貸貸ヲ目的トスル行爲
 二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル
 行爲
 三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲
 四 運送ニ關スル行爲
 五 作業又ハ勞務ノ請負
 六 出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲
 七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引
 八 兩替其他ノ銀行取引
 九 保險

十 寄託ノ引受
 十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
 十二 商行爲ノ代理ノ引受
 第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行
 爲ハ之ヲ商行爲トス
 商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定
 ス
 第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メ
 ニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本
 人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲
 メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對
 シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨
 ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲
 ナ爲スコトヲ得
 第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ
 本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス
 第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ
 受ケタル者カ直ニ承諾ヲ爲ササルトキハ申
 込ハ其效力ヲ失フ
 第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定メ
 ヲシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間

内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效
 力ヲ失フ
 民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
 ヲ準用ス
 第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ
 其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル
 トキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要
 ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込
 ナ承諾シタルモノト看做ス
 第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル
 契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ
 受取りタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタ
 ルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保
 管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ
 償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リ
 テ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス
 第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メ
 ニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタル
 トキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
 保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ
 商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行
 爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別

ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特

定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ

之ヲ爲スコトヲ要ス 指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第二百七十九條 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責任ス

第二百八十條 (削除同上)

第二百八十一條 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得(改正同上)

第二百八十二條 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ

有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス(同上)

第二百八十三條 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受ケルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

第二百八十五條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五期間ノ履行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但其他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二百八十五條ノ二 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス(追加同上)

第二章 賣 買

第二百八十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其

目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ檢査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シ

目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

テ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百八十九條

前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百九十條

前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケズ

第二百九十六條

各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第二百九十七條

匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十八條

匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セズ

第二百九十九條

匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用井又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第三百條

出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第二百九十一條

交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條

手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百九十三條

當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第二百九十四條

當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十五條

相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第三百一條

組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二條

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキハ各當事者ハ何ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三百三條

前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第三百三條

組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第三百四條

第八八條、第九十一條及ヒ第九十五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第三百五條

仲立人トハ他人間ノ商行為ノ媒介

ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百六條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見

第三百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタル

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又

第三百十二條 仲立人ハ第三白八條ノ手續ヲ終

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場

第三百十九條 問屋ノ規定ニ準用ス

第三百二十條 本條ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用

第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場

第三百十九條 問屋ノ規定ニ準用ス

第三百二十條 本條ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用

第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十四條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十五條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十六條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十七條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十八條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百二十九條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百三十條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

第三百三十一條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人

コトヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送貨ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百二十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送貨其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

第三百二十六條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ナルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條 運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作りタルトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得(同上)

第三百二十八條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ

五百二十二

運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百二十九條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百三十條 第三百三十八條及ヒ第三百四十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第八章 運送營業

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第一節 物品運送

第三百三十二條 荷受人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷受人ノ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

第三百三十五條

貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス(改正同上)

第三百三十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ爲ス若シ運送人カ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷受人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷受人カ運送ヲ委託スルニ當タリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十三條 運送人ハ荷受人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人ノ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ゲタル事項

二 荷受人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十四條ノ二 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(同上)

第三百三十四條ノ三 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁ズル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第三百三十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第三百四十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス(同上)

第三百四十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル

對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十六條 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ運滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取り且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百四十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ

運送貨、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取りタルトキハ運送人ニ對シ運送費其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條 貨物引換證ヲ作リタル場合ニ於テハ之ヲ引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百四十五條 荷受人カ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第三百五十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害賠償ノ額ヲ免ルルコトヲ得ス

損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス

第三百五十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第三百五十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章 寄託
第一節 總則
第五百二十五

第三百五十三條

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十四條

旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百五十五條

貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ左シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第三百五十六條

前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル免ルルコトヲ得ス

五百二十六

後一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第三百五十七條

倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條

倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條

預證券及質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 受寄物ノ種類、品質、數量及其荷造ノ種類、個數並ニ記號
- 二 寄託者ノ氏名又ハ商號
- 三 保管ノ場所
- 四 保管料
- 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間
- 六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金

額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號

第三百六十條

倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百六十一條

預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

第三百六十二條

預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條

(削除同上)

第三百六十四條

預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又

ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十五條

第三百三十四條ノ二及ヒ第三百三十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第三百六十六條

預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條

質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百六十八條

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十九條

預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ(追加同上)

第三百六十七條ノ三 質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第三百六十八條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租税、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリ

(同上)

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第三百七十八條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

シトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得(改正同上)

第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四、第四百九十一條、第四百九十二條及ヒ第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス(同上)

第三百七十三條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セザリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十九條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得(第二項削除同上)

第三百八十一條ノ二 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應シテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス(追加同上)

第三百八十二條ノ三 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス(同上)

第三百七十一條ノ規定ハ前條第一項ノ供託金五百二十九

キ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三百八十一條 第二百八十六條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス(改正同上)

第三百七十條及ヒ第三百七十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第三百八十二條 第三百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レザルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス
前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三百八十三條ノ二 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス(追加同上)

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス(同上)

第三百八十三條ノ三 倉荷證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉荷證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス(同上)

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第三百八十四條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ爲ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

トヲ得

第三百八十六條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第三百八十七條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

數箇ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百八十八條 相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラザルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第三百八十九條 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ
二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタル

トキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百九十條 同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサズ

第三百九十一條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十二條 保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十三條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス
第三百九十四條 當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク適當ナルコト

ヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百九十五條 戦争其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セズ

第三百九十六條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セズ

第三百九十七條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

第三百九十八條 (削除同上)

第三百九十九條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事

ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス(追加同上)

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一ヶ月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ(同上)

第三百九十九條 三 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス(同上)

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セズ若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケザリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

第四百條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百二條 保險契約者カ委任ヲ受ケシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
- 二 保險者ノ負擔シタル危險
- 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
- 四 保險金額
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日
- 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第四百四條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタ

ルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百五條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前二項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百七條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲

第四百八條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保
險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保
險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔
ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ
保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコ
トヲ要ス

第四百九條 前二項ノ場合ニ於テハ保險者ハ其
返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請
求スルコトヲ得

第四百十條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ
被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク
變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力
ヲ失フ

第四百十一條 保險期間中危險カ保險契約者又
ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカヲサル事由ニ因リ
テ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ
契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ
向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ
危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リ
タルトキハ遲滯ナク之ヲ保險者ニ通知スルコ
トヲ要ス

トヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者
ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其
效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得
保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若
クハ増加ヲ知リタル後遲滯ナク契約ノ解除ヲ
爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看
做ス

第四百十二條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生
ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約
者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知
リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ對シテ其通知
ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔
スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目
的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ
滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補
スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムル
コトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ
費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト
雖モ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第四百十五條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル
場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒ
タルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權
利ヲ取得ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタ
ル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保
險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生
シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其
負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額
ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三
者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支
拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權
利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタ
ル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條 保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料
返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ
經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(改正
同上)

第四百十八條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準

用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在
ラス

第二款 火災保險

第四百十九條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其
火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル
責ニ任ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六
條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ
因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者
之ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十一條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管ス
ル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ
其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者
ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコト
ヲ得

第四百二十二條 火災保險證券ニハ第四百三條
第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載ス
ルコトヲ要ス
一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用
方
二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル
建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第四百二十三條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十四條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送費其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

第四百二十五條 運送保險証券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
 - 二 運送人ノ氏名又ハ商號
 - 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
 - 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間
- 第四百二十六條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

五百三十六

第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス(同上) 保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ(同上)

第四百二十八條ノ二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ(追加同上) 前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタ

ルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス(同上)

第四百二十八條ノ三 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得(同上)

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス(同上)

第四百二十八條ノ四 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第四百二十八條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解

除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス(改正同上)

第三百九十九條ノ二第二項及ヒ第三百九十九條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百三十條 生命保險証券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
 - 二 被保險者ノ氏名
 - 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名(同上)
- 第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス
- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
 - 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
 - 三 保險契約者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致

第四編 手形

第一章 總則

シタルトキ 追加同上)

前項第一號及七第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス(改正同上)

第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百三十二條ノ二 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(追加同上)

第四百三十三條 第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條、第四百一一條、第四百三十三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、第四百十條、第四百十一條、第四百十七條及七第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、第四百十條及七第四百十一條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス(同上)

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルコトヲ得ス但直接ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタル者ニ對シ其手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前

者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ一年裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス(同上)

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ滿期日
- 八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載

シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百四十九條ノ二 振出人ハ爲替手形ニ受取人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其爲替手形ノ所持人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得(追加同上)

前項ノ爲替手形ハ無記名式ノモノト同一ノ效力ヲ有ス(同上)

第四百四十九條ノ三 第四百四十九條ノ規定ハ前條第一項ニ定メタル爲替手形ニ之ヲ準用ス(同上)

第四百五十條 満期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ満期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ満期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ支拂人ノ氏名又ハ商號ヲ附記シタル地ヲ以テ其支拂地トス(改正同上)

第四百五十二條ノ二 支拂人ノ氏名又ハ商號ニ附記シタル地ハ之ヲ其營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(追加同上)

第四百五十三條 振出人ハ支拂人ニ非サル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得(改正同上)

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ

裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ取立ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス(同上)

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

抹消シタル裏書ハ裏書ノ連續ニ付テハ其記載ナキモノト看做ス(追加同上)

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ支拂人

ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

引受人カ引受ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス
第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

第四百七十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第四百七十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(同上)

第四百七十六條 擔保ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第四百七十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百七十八條 前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲サザリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百七十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セザリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セザリシトキハ支拂地ニ於テ自ら支拂ヲ爲ス責ニ任ス(改正同上)

前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

爲シタルトキハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス(第二項削除同上)

第四百七十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百七十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ

二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
四 手形上ノ權利カ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ

五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年内ニ償還ノ請求ヲ受ケザリシトキ

第四百八十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セサルトキハ所持人ハ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ得但拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(改正同上)
豫備支拂人ナキトキ又ハ豫備支拂人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ其前者ニ

對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ

- 一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
- 二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス(同上)

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上)

第六節 償還ノ請求

第四百八十八條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十九條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上)

第四百九十條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十一條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十二條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十三條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十四條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十六條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十七條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十八條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十九條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零一條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零二條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零三條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零四條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零五條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零六條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百零七條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

要ス(同上)

前條ノ規定ハ裏書地ヲ記載セザリシ裏書人ニ對スル權利義務ニハ之ヲ適用セス振出人カ振出地ヲ記載セザリシトキ亦同シ(同上)

第四百八十八條ノ四 所持人又ハ裏書人カ其前者ニ對シ第四百八十七條ノ二又ハ第四百八十八條ノ期間内ニ書面ヲ發送シタル事實アルトキハ其事實ニ付キ通信官署又ハ公衆通信取扱所ノ證アル場合ニ限り其書面ハ之ヲ償還請求ノ通知書ト推定ス(同上)

第四百八十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキト雖モ其作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除シタル者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百八十九條ノ二 支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ呈示シタルモノト推定ス(同上)

第四百九十條 所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對スル權利ヲ失フ

第四百八十七條ノ二 前條第一項ノ場合ニ於テハ所持人ハ其直接ノ前者ニ對シ拒絕證書作成ノ日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス(追加同上)

第四百八十八條 裏書人カ其後者ヨリ償還請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ其直接ノ前者ニ對シ通知ヲ發ケタル日又ハ其後二日內ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス(改正同上)

第四百八十八條ノ二 所持人又ハ裏書人カ其直接ノ前者ニ非サル前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發シタルトキハ其後者ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任シ且利息及ヒ費用ノ償還ヲ請求スル權利ヲ失フ(追加同上)

所持人又ハ裏書人カ其前者ノ何レニ對シテモ通知ヲ發セザリシトキハ其前者全員ニ對スル權利義務ニ付キ前項ノ規定ヲ準用ス(同上)

第四百八十八條ノ三 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ裏書地ヲ記載セザリシトキハ償還請求ノ通知ハ其直接ノ前者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ

對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百八十一條 左ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ

一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

第四百七十九條第二號乃至第五號ノ場合

第五節 支拂

第四百八十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百八十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百八十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且其寫本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付スルコトヲ要ス(同上)

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第四百八十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上)

第六節 償還ノ請求

第四百八十八條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百八十九條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ滿期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ同一期間内ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス但此期間ニハ休日ヲ算入セス(同上)

第四百九十條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十一條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百九十二條 所持人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル(同上)

第四百九十二條 償還ノ請求ヲ受ケタル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
二 其支出シタル費用

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ其前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百九十四條 所持人又ハ裏書人カ前條ノ規定ニ依リテ振出ス爲替手形ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス(改正同上)

所持人カ振出ス爲替手形ニハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ振出地ト定メ裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其營業所又ハ住所ノ所在地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス(同上)

第四百九十五條 償還ハ爲替手形、支拂拒絕證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲ス

欲スルトキハ支拂擔當者ニ、若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲サリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百八十七條第一項ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス(改正同上)爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲サリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百九十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息
二 拒絕證書作成ノ手数料其他ノ費用

前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所ノ所在地ニ最モ近キ

コトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受ケル者ヲシテ償還計算書ニ償還ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百九十六條 (削除同上)

第七節 保證

第四百九十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百九十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百九十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有セシ權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第八節 參加

第一款 參加引受

第五百條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ

作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ其ノ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得

豫備支拂人カ引受ヲ爲サリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第五百一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非サル者ノ參加引受ヲ拒ムコトヲ得

第五百二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ヲ引受テ爲サシムルコトヲ得

第五百三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百四條 所持人ハ引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ參加引受人ニ交付スルコトヲ要ス

參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絕證書ヲ被參加

加人ニ送付スルコトヲ要ス
第五百五條 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲サル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示セサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル 改正同上

第五百六條 爲替手形ノ所持人其他被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第五百七條 被參加人ハ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百七十六條乃至第四百七十九條ノ規定ヲ準用ス(同上)

第二款 參加支拂

第五百八條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間内ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支

拂ヲ求メタル後ニ非サレハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(同上)
參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ヲ指定シタル者又ハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百九條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル者ノ參加支拂ト雖モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百十條 參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第五百十一條 豫備支拂人又ハ參加引受人ニ非サル參加支拂人カ被參加人ヲ示ササリシトキハ其支拂ハ支拂人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百十二條 所持人ハ支拂拒絕證書ニ參加支

拂アリタル旨ヲ記載セシメ且手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ其拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付スルコトヲ要ス

第五百十三條 參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對スル所持人ノ權利ヲ取得ス

第九節 拒絕證書

第五百十四條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第五百十五條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス(同上)

- 一 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號
- 二 拒絕者ニ對スル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハサリシコト又ハ其營業所、住所若クハ居所カ知レサリシコト
- 三 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日
- 四 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾シタルコト
- 五 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ

種類及ヒ參加人竝ニ被參加人ノ氏名又ハ商號

六 拒絕證書作成ノ場所及ヒ年月日

第五百十五條ノ二 支拂拒絕證書ノ作成ハ爲替手形又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス(追加同上)

第五百十五條ノ三 爲替手形ノ數通ノ複本又ハ原本及ヒ謄本ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂拒絕證書ヲ作ルトキハ其作成ハ一通ノ複本若クハ原本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲スヲ以テ足ル(同上)

前項ノ規定ニ依リテ支拂拒絕證書ヲ作リタルトキハ他ノ複本又ハ謄本ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百十五條ノ四 支拂拒絕ノ場合ヲ除ク外拒絕證書ノ作成ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本又ハ附箋ニ依リテ之ヲ爲ス(同上)

第五百十五條ノ五 爲替手形、複本、原本又ハ爲替手形若クハ其謄本ノ寫本ニ依リテ拒絕證書ヲ作ル場合ニ於テハ第五百十五條ニ掲ゲタル事項ハ其裏面ニ記載シタル事項ニ接續シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)
附箋ニ依ル場合ニ於テハ公證人又ハ執達吏ハ

其様目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第五百十六條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證書ヲ作ラシムルヲ以テ足ル

第五百十七條 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作リタルトキハ其謄本ニ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ其役場ニ備フルコトヲ要ス(改正同上)

一 手形金額
二 振出人、支拂人及ヒ受取人ノ氏名又ハ商號

三 振出ノ年月日
四 満期日及ヒ支拂地

五 支拂擔當者、豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其氏名又ハ商號
拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十節 爲替手形ノ複本及ヒ謄本
第五百十八條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但所持人カ受取人ニ非ラサルトキハ順次ニ其ノ前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第五百十九條 爲替手形ノ所持人ハ其謄本ヲ作リタルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラズ

五百五十

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作リタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス
第五百十九條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第五百二十條 爲替手形ノ複本ヲ作リタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラズ

第五百二十一條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數通ノ爲替手形

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス
一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
二 一定ノ金額
三 受取人ノ氏名又ハ商號
四 單純ナル支拂ノ約束
五 振出ノ年月日
六 一定ノ満期日
七 振出地

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(追加同上)

第五百二十八條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第三章 約束手形

第五百二十三條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其謄本ヲ作リタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

第五百二十四條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セザル場合ニ於テ其謄本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事實ヲ證明スルトキハ謄本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又謄本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百二十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス

第五百二十六條 振出人カ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百二十七條 振出地ハ之ヲ振出人ノ營業所又ハ住所ノ所在地ト看做ス(追加同上)

第五百二十八條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百二十九條 第四百四十六條、第四百四十九條乃至第四百五十一條、第四百五十三條乃至第四百六十四條、第四百七十一條、第四百八十條乃至第四百九十九條、第五百八條乃至第五百十七條及ヒ第五百二十二條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第四章 小切手

第五百三十條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス
一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
二 一定ノ金額

三 支拂人ノ氏名又ハ商號
四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト
五 單純ナル支拂ノ委託
六 振出ノ年月日
七 支拂地

第五百三十一條 (削除同上)
第五百三十二條 小切手ハ一覽拂ノモノトス
第五百三十三條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ十日内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス(改正同上)

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲ササリシトキハ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
第五百三十三條ノ二 小切手ノ振出人ハ呈示期間經過前ニハ支拂ノ委託ヲ取消スコトヲ得ス(追加同上)

支拂人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支拂ヲ爲スコトヲ得(同上)
第五百三十三條ノ三 小切手ノ所持人カ支拂人ノ加入シタル手形交換所ニ小切手ヲ提出シタルトキハ支拂地ニ於テ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス(改正同上)

呈示シタルト同一ノ效力ヲ有ス(同上)
第五百三十四條 小切手ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ呈示期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル(改正同上)

手形交換所ニ於テ呈示期間内ニ小切手ノ提出及ヒ支拂拒絶アリタル旨ヲ證明シタルトキ亦同シ(追加同上)
第五百三十四條ノ二 前二條ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス(同上)

第五百三十五條 小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得

振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但し其銀行カ其商號ヲ抹消シテ他ノ銀行ノ商號ヲ記載シ之ニ取立ノ委任ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百三十六條 振出人カ支拂人ヲシテ支拂ヲ

爲サシムルコトヲ得ル金額ヲ超エテ小切手ヲ振出シタルトキハ五圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス(改正同上)
第五百三十七條 第四百四十六條、第四百四十七條、第四百四十九條ノ二、第四百五十二條、第四百五十二條ノ二、第四百五十五條、第四百五十七條、第四百五十九條乃至第四百六十四條、第四百八十三條、第四百八十四條、第四百八十六條乃至第四百八十九條ノ二、第四百九十一條、第四百九十二條、第四百九十五條、第五百十四條乃至第五百十五條ノ二、第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス(同上)

第五編 海 商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者
第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
第五百三十九條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル

物ハ其從物ト推定ス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十一條 船舶所有權ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第五百四十二條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第五百四十三條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス

但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百四十四條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損

五百五十四

害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第五百四十四條ノ二 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス(追加同上)

第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得シテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス(改正同上)

第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共

有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨償スル責ニ任ス

第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ズシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百五十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ノ讓渡、委付若クハ貸貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百五十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百五十五條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スル

五百五十五

コトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式會資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取ルコトヲ得

第五百五十六條 船舶ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百五十七條

船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ

五百五十六

對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百五十九條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百六十條

船長カ已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第五百六十一條

船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第五百六十二條

船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄

四 航海日誌

五 旅客名簿

六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類

七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限リ命令ヲ以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第五百六十三條

船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百六十四條

船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セシメテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十五條

船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス
利害關係人ハ船長ノ行為ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其

責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十六條

船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

第五百六十七條

船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六十八條

船長ハ船舶ノ修繕費、救助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行為ヲ爲スコトヲ得ス(改正同上)

一 船舶ヲ抵當ト爲スコト

二 借財ヲ爲スコト

三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ買入スルコト但第五百六十五條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

船長カ積荷ヲ賣却又ハ買入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時

五百五十七

得此場合ニ於テハ第五百六十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百七十三條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百七十四條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百七十五條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債

ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支拂フコトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百六十九條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船長ニ對シテ第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百七十條 船籍港外ニ於テ船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百七十一條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス
一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百七十二條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ

權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百七十八條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十九條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ給料ノ増加ヲ請求スルコト

ヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ

二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シテ之ニ重大ナル過失アリタルトキ

三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員

ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百八十二條 海員カ前條第一項ニ掲ゲタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一ヶ月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得
一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

第五百八十四條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約ニ得

因リテ生シタル權利義務ヲ有ス
第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超エルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス
第五百八十六條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外船舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十七條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
一 船舶カ沈没シタルコト
二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト
三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得
第五百八十八條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘ

テ其費用ヲ請求スルコトヲ得
第五百八十九條 第五百七十五條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第五百九十條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十一條 船舶所有者ハ僱船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百九十二條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十三條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但

船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百九十四條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運送品ヲ僱船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

僱船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第五百九十五條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ僱船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限

リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得
第五百九十六條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積
セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送貨
ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リ
テ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船積所有者ノ請
求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
第五百九十七條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ
運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ
直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百九十八條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送
貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ
得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸
航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運
送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ
船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船
積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ
亦同シ
運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項

ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ
其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス
備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲サザ
リシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做
ス

第五百九十九條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ
契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用
及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲
ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應ジ共同海
損、又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ
コトヲ要ス(改正同上)

第六百條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全
額ヲ支拂フ外第六百六條第一項ニ定メタル債
務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠
償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約
ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百一條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的
ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及
シテ荷送人ト共同セシテ發航前ニ契約ノ解除
ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコト
ヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル

運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ
一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送
人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲ス
コトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ
目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二條 箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目
的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從
ヒ運送品ヲ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長
ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ
荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但
船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ
之ヲ控除ス

第六百三條 第六百一條ノ規定ハ荷送人カ契約
ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百四條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ
運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ
要ス

第六百五條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契
約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚

スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長
ハ運送品ヲ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコ
トヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テ
ハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ
之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタ
ルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相
當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲
スコト能ハサル日ヲ算入セス

箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタ
ルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ
運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第六百六條 荷受人カ運送品ヲ受取りタルトキ
ハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送貨
、附隨ノ費用、立替金、碇泊料及ヒ運送品ノ價
格ニ應ジ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ
金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ(同上)

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引換ニ非
サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要ス

第六百七條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠
リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此

場合ニ於テハ運滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人チ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ運滞ナク備船者又ハ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第六百九條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航遅若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百九十四條第二項又ハ第六百五條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第六百十條 船舶所有者ハ第六百六條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許

五百六十四

可テ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得
船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十一條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷受人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷受人ハ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責任ス但第五百四十四條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第六百十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
一 第五百八十七條第一項ニ掲ゲタル事由
二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百八十七條第一項ニ掲ゲタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十四條 航海又ハ運送方法令ニ反スルニ至リタルトキ其ノ他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當業者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ゲタル事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十五條 第六百十三條第一項第二號及ヒ前條第一項ニ掲ゲタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハント欲スルトキハ運滞ナク運送品ノ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚又ハ船積ヲ怠リタル

トキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十六條 第六百十三條及第六百十四條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ箇箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百十三條第一項第二號及ヒ第六百十四條第一項ニ掲ゲタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキト雖モ備船者又ハ荷受人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十七條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長カ第五百六十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ
二 船長カ第五百七十二條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
三 船長カ第六百四十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第六百十八條 船舶所有者ノ備船者、荷受人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百十九條 第三百二十八條、第三百三十六條乃至第三百四十一條及ヒ第三百四十八條ノ

五百六十五

規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第六百二十條 船長ハ傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十一條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百二十二條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一 船舶ノ名稱及ヒ國籍

二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名

三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號

四 傭船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號

五 荷受人ノ氏名若クハ商號(改正同上)

六 船積港

七 陸揚港但發航後傭船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ港

八 運送貨

九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二十三條 傭船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ原本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百二十四條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得

第六百二十五條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非サレハ運送品ヲ引渡スルコトヲ得

第六百二十六條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第六百二十四條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百二十七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第六百二十八條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未ダ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第六百二十九條 第三百三十四條乃至第三百三十五條及ヒ第三百四十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス(同上)

第二節 旅客運送

第六百三十條 記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第六百三十一條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百三十二條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ攜帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十三條 旅客カ乗船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百三十四條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨

ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百三十五條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得

第六百三十六條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 旅客運送契約ハ第五百八十七條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

五百六十七

第六百三十八條 旅客カ死亡シタルトキハ船長

ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十九條 第三百五十條、第三百五十一條

第一項、第三百五十二條、第五百九十一條、第五百九十二條、第六百十四條及第六百十八條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部

又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第六百四十一條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共

同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第六百四十二條 共同海損ハ之ニ因リテ保存ス

ルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十三條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船

舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送賃其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百四十四條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損

ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノ其責ニ任ス

第六百四十五條 船舶ニ備附ケタル武器、船員

ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料竝ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百四十六條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評

定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル

損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ

但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ゲタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十七條 共同海損タル損害ノ額ハ到達

ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百三十八條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十八條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評

定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十九條 第六百四十二條ノ規定ニ依リ

テ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所

有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ價金中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス(改正同上)

第六百五十條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リ

テ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百五十一條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因

リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力

ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲

ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助(追加同上、第五章ヲ第

六章ニ、第六章ヲ第七章ニ改正)

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ

一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシ

テ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シテ相當ノ

救助料ヲ請求スルコトヲ得(追加同上)

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場

合ニ於テ其ノ額ニ付キ等アルトキハ危險ノ程

度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シタル勞力及

ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ

定ム(同上)

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救

助料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク不相

當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ減少ヲ請求

スルコトヲ得此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準

用ス(同上)

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキト

キハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ

得ス(同上)

先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先

取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユル

五百七十

コトヲ得ス(同上)

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲

シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ

第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス(同上)

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ

從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得(同上)

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ

汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナル

トキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ支拂ヒ其殘

額ハ折半トシテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコ

トヲ要ス(同上)

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ

分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於テハ前條ノ規

定ヲ準用ス(同上)

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定

ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海終ハル

マテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコト

ヲ要ス(同上)

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對

シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其告示

アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初

關スル規定ヲ準用ス(同上)

第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者

ニ代ハリテ其支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ

裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス(同上)

救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ラ原告又

ハ被告ト爲ルコトヲ得但其訴ニ付キ言渡シタ

ル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ

有ス(同上)

第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セ

ラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

(同上)

第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取

特權ハ債務者カ其積荷ヲ第三取得者ニ引渡シ

タル後ハ其積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得スハ

同上)

第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助

ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時

效ニ因リテ消滅ス(同上)

第六章 保險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル

事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補

ヲ以テ其目的トス

五百七十一

ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配

案ヲ更正スルコトヲ得(同上)

船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲ス

コトヲ得ス(同上)

第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ意

リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船

長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得(

同上)

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳

ハ分配案ヲ作ルコトヲ得(同上)

第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助

者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス(同上)

一 故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタル

トキ

二 正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ

拘ハラシ強ヒテ之ニ從事シタルトキ

三 救助シタル物品ヲ隱匿シ又ハ濫ニ之ヲ處

分シタルトキ

第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其債權ニ付キ

救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス(同上)

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其積積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積積ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ル但陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積積カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ゲタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船

船ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名

二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積積及ヒ陸揚港

第六百六十二條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百六十三條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其著シク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ

責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ボササリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由

ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス
第六百六十四條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ボサス

第六百六十五條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更力保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百六十七條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セズ

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
- 三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出ダシタル通常ノ費用

第六百六十八條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セズ

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超

エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス
前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ於テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百九十一條ノ適用ヲ妨ケズ
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ

有セサル權利ヲ取得ス

第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
- 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
- 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
- 四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ運滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ

委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ六ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應ジテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受ケルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權者有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費

五百七十六

二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費

三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅

四 水先案内料及ヒ挽船料

五 救助料及船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損（改正同上）

六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權

七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權

八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ積裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ積裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權

九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ五ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六

百八十一條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ受ク但第六百八十一條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓渡人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス
先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年六月勅令第三百三十三號ヲ以テ同年六月十六日ヨリ施行ス）明治二十三年法律第三十二號商法ハ第三編ヲ除ク外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
明治四十四年（五月）法律第七十三號（商法中改正法律）ノ附則

(明治四十四年十月一日ヨリ施行ス)

- 第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
- 第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ第三項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス
- 第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第五條 第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス
- 第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス
- 前項ノ規定ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第四百四十二條ノ二乃至第四百四十二條ノ四ノ規定ノ適用

五百七十八

- 第八條 第五百五十二條第三項及ヒ第五百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第五百五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
- 第九條 第六十三條及ヒ第六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス
- 第十條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第十一條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス
- 第六十三條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル創立總會ノ決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス
- 第十二條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
- 第十三條 第七十七條及ヒ第八十六條ノ規

- 定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
- 第十四條 本法施行前ニ株式會社カ社債募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但未タ社債募集ノ公告ヲ爲ササルトキハ第二十三條、第二十三條ノ二、第二十四條ノ二及ヒ第二十七條ノ二ノ規定ヲ適用ス
- 第十五條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十八條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

五百七十九

- 第十九條 附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
- 第二十條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未タ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス
- 第二十一條 附則第九條、第十條、第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十二條 附則第四條及ヒ第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
- 第二十三條 前十六條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス
- 第二十四條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行為アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
- 第二十五條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ質入裏書アリタル質入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證

券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 質入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

質入證券裏書人ノ前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六ヶ月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六ヶ月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十八條ノ二及ヒ第三百八十八條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ質入證券ニモ亦之ヲ適用ス但シ其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後

ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ適用ス

第二十九條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ

五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前三條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ適用ス

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則第三十一條及第三十二條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ適用ス

第三十五條 第五百四十四條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル原因ニ基キ其施行後ニ委付ヲ爲ス場合ニモ亦之ヲ適用ス

●商法施行法

(三十二年三月七日法律第四十九號)

第一條 商法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外舊法ノ規定ヲ適用ス

第二條 商事ニ關スル特別ノ法令ハ商法施行ノ

後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第三條 特別ノ法令中舊商法ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ舊商法ハ商法、施行ノ後ト雖モ仍ホ其效力ヲ存ス

第四條 商法施行前ヨリ商業ヲ營ム未成年者、妻及ヒ後見人ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 商法施行前ニ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サシメタル未成年者又ハ妻ハ商法施行ノ日ヨリ其會社ノ業務ニ關シ之ヲ能力者ト看做ス

第六條 商法第七條第二項ノ規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル制限ニモ亦之ヲ適用ス

第七條 商法第八條ニ定メタル小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 商法施行前ニ舊法ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第九條 商法施行前ニ登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタル場合ニ於テ商法施行前ニ登記ヲ爲ササリシトキハ當事者ハ其

施行ノ後遲滞ナク登記ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 商法施行前ニ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ノ社名ハ商法ノ規定ニ從ヒテ登記シタル商號ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ其社名中ニ合名會社ナル文字ヲ用井サレモノハ其施行ノ日ヨリ三個月内ニ商法第十七條ノ規定ニ從ヒテ其社名ヲ改メ且其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 商法第十八條ノ規定ハ商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十三條 商法第十九條ノ規定ハ舊商法施行前ヨリ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス
商法施行後ニ商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ舊商法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商法第二十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 商法第十九條、第二十條第二項、第二十二條第一項及ヒ第二百八十九條第三項ニ掲

ケタル市町村ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域トシ東京市、京都市及ヒ大阪市ニ在リテハ其各區トス

第十五條 商法施行前ニ東京市又ハ大阪市ニ於テ商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ商法施行ノ日ヨリ六個月内ニ其市ニ存スル他ノ登記所ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 商法第二十二條第二項ノ適用ニ付テハ北海道ハ之ヲ一府縣ト看做ス

第十七條 商法第二十八條ノ規定ハ商法施行前ニ作リタル商業帳簿ニモ亦之ヲ適用ス

第十八條 代務人ニハ商法施行ノ日ヨリ支配人ニ關スル規定ヲ適用ス
第十九條 商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セサルトキハ主人ハ商法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス
主人カ前項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名

稱ヲ改メサリシトキハ其者ハ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス

第二十條 商法第三十二條第三項ノ規定ハ舊商法第五十條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス但一年ノ期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 商法中代理商ニ關スル規定ハ商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ定メタル代理商ニモ亦之ヲ適用ス

第二十二條 商法中會社ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外商法施行ノ日ヨリ其施行前ニ設立シタル會社ニモ亦之ヲ適用ス

第二十三條 商法第四十七條ニ定メタル期間ハ商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 商法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ未タ設立ノ登記ヲ爲ササルモノハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ商法ノ規定ニ從ヒテ

定款ヲ作り且商法第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 商法施行前ニ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル合名會社ハ商法施行ノ日ヨリ一ヶ月内ニ本店ノ所在地ニ於テハ支店、支店ノ所在地ニ於テハ本店並ニ他ノ支店及ヒ社員ノ出資ノ種類並ニ財產ヲ目的トスル出資ノ價格ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十六條 商法第五十一條第二項、第三項及ヒ第五十二條ノ規定ハ合名會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後商法施行前ニ支店ヲ設ケ又ハ其本店若クハ支店ヲ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス但登記期間ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條 會社ノ業務ヲ執行スル社員カ前二條ノ規定ニ依リ爲スヘキ登記ヲ怠リタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十八條 商法第六十條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ舊商法第四百條ノ規定ニ反シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商法第七十一條ノ規定ハ商法施行前ニ設立シタル合名會社ニハ之ヲ適用セス

第三十條 合名會社ノ目的タル事業ノ成功カ商

法施行前ニ不能ト爲リタルトキハ裁判所カ解散ヲ命シタル場合ヲ除ク外其會社ハ商法ノ施行ト同時ニ解散シタルモノト看做ス

第三十一條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十二條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ既ニ清算人ヲ選任シタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第七十六條及ヒ第九十條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條 合名會社カ商法施行前ニ解散シタル場合ニ於テ未タ清算人ヲ選任セサルトキハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ商法施行ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

コトヲ要ス

商法第七十八條第二項、第七十五條及ヒ第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 合名會社カ商法施行前ニ解散ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ清算ハ舊商法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第三十六條 合名會社ニ於テ商法施行前ニ清算人ノ解任又ハ變更アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ二週間内ニ商法第九十七條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十七條 商法第三百三條ノ規定ハ商法施行前ニ解散シタル合名會社ニモ亦之ヲ準用ス

第三十八條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ舊商法ノ規定ヲ準用ス

第三十九條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ其取引ニ關スル一切ノ書類ニ商法施行前ニ設立シタル會社タルコトヲ示スコトヲ要ス

第四十條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ業務擔當社員カ前項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラレ

ニ從ヒテ會社ノ設立ヲ爲スコトヲ得但商法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第四十六條 商法施行前ニ創業總會ニ於テ定款ヲ確定シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ從ヒテ其定款ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十七條 商法第三百十條ノ規定ハ前二條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第四十八條 商法第六十三條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依リテ招集シタル創業總會ノ決議ニ之ヲ準用ス但同條第二項ノ期間ハ商法施行前ニ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十九條 第四十五條ノ場合ニ於テ商法施行前ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其施行ノ日ヨリ商法施行後ニ株式總數ノ引受アリタルトキハ其日ヨリ六個月内ニ發起人カ創業總會ヲ招集セサルトキハ株式申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得

第五十條 第四十五條及ヒ第四十六條ノ場合ニ於テハ株式會社ハ各株ニ付キ株金ノ四分ノ一ノ拂込アリタル後二週間内ニ商法第四百一十條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

舊商法第五百一十一條第二項ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ商法ニ定メタル合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ總會ハ直チニ新會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四十一條 商法第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第二百五十四條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 商法施行前ニ設立シタル合資會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ合併ヲ爲スコトヲ得但合併後存續シ又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ商法ニ定メタル種類ノ一タルコトヲ要ス

第四十三條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ニ於テハ其發起人ハ七人以上ナルコトヲ要セ

第四十四條 商法施行前ニ發起ノ認可ヲ得タル株式會社ト雖モ其發起人カ未タ株主ノ募集ニ著手セサルトキハ之ニ商法ノ規定ヲ適用ス

第四十五條 株式會社ノ發起人カ商法施行前ニ株主ノ募集ニ著手シタルトキハ舊商法ノ規定